

觀文禽譜

上之五

		一	和
		七	書
		五	門
		四	
		一	
六	四	七	類
册	架	函	號

136

庫文閣内			
一	一		和
九	七		書
七	四		
函	一		
四	六	四	類
架	册	號	類

物産 三三

内閣文庫	
番號	和 17541
册數	6 (1)
函號	197 136



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



観
文禽譜

水禽上

上之上

水禽上

ツル

カウ

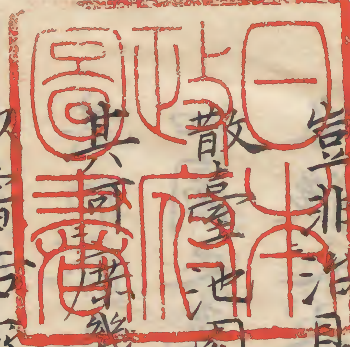
サキ

トキ

浅草文庫

花廼家文庫

書



凡物有_二用者有_二無用者苟所好得其道矣無用者亦為有用所好不得其道矣有用者亦為無用夫樂豈非治具之大者哉而不與民同樂則百姓為之離散臺池囿囿胡與乎治之事也而與民偕樂則文王其齊樂幾苟所好得其道矣於物何有也是孟子所以嘗告齊梁君者今讀其說豈不深切著明而可信焉乎乃為人上者能推其所好以及民則治安之術其亦他求哉

大參堀田公嘗編觀文禽譜若干卷文者所謂鳥獸之文也蓋本

其六世祖元海公所草旁取仙臺故中將公遺意而
補其未備又系之說命画人數輩著色由三百篇而
下凡咏於詩詞及醫方所資蕃舶所貨摸肖之精考
據之詳繁然其奇觀焉一日

公語摩曰昔者我先考之在疾欲得一禽藥之詢
其形狀人莫能識余乃按圖審象所求即獲於是始
知圖之為設其用不虛也今也整理之將以與衆共
之後文求吾所求者其或就考焉庶幾於生民有所
裨也然貴異物賤用物古人戒矣斯舉嫌焉子盍為
我序作之解說嗚乎

公崇顯之位要劇之職孰知其意有及於此耶蓋濟
世之思無窮細微必舉若

公可謂能推其所好者矣摩也淺陋唯知信孟子之
言為書之卷端因以廣

公之意甲寅孟冬教官尾藤肇謹撰

むまこころはしるべしとたもつこの銀文倉後
もその中の元代なるをゆへうとてつうせ
の御母はさしとれかそ更よ伊をういせん作
父さみのん地をこた花多ひの茶よわり
とせらねたのあつめあまひ 國とそええや
考久計をてふそのをえしと念の志おね
名を杉葉やけりのころのまを絵ひとせ
こは伊うてふものなること國あけあかの
國をゆへうとてあうふことなるうや
たれそのめを あつらまを察しとてあは

あつらわれしわれをよりの鳥字やうたひ
しとてなるあちの杉や天の御む多ひ
空生の花をううひうのせうとなりの多
中將の天の養ひ多ひあつらのやまやの
とらなりと事よ足るへうとてそれよりと
つたてせち字をせしやあつのみたうあ
を波のうと志能胡はあつたしとわさま
とあひしうのととれとらうのしすか
ううはまし小野を桑山はとてうり
のかくめしううかうのうをうとて

ゆよ事末めしうたひしり深哉人しよゆつう
ていそは時をけしものくさひんてり同り
ゑようたしきり載る字あつめめえをせ
しなり

やまともりしあるしとちるせしものねく
うはちうし氣味とま流とをのせしちちう
いあれとわれきびのたよらしく燈山し
あまひてし後字めむいしとぬきをくれい
流ししすしあしとん次考しそ記
よりい内う函四あうのちをこのめきより

そしうらをもちぬれをいぬいあしとれ
よとむしあかしのもやまとたは出つとい
つそゆしうしとちりたされと百開し
不如一見しやんを統をんありを國と
そきれはそちらなえしそ國あしりあ
とり字らそんきれはそ去を見ししあ
の字をあつめらうかししは弦のあを力
大むひをちししあよ一結となせり
はあををるしよ本系綱目の例よち
い水原林山のほりとりて門とわうしと

いとも因りていつひなるをへちよ出りて考
を因りてなるに依りて出りて考
細月の例よとて入るもあやふしきこととて
細月系禽よれきり鳥の梅禽よ入りて
いへしとやまこととてに因りていつひなる
今せし梅禽よ入りてこの秋終り
すめとてこのころいの小とりも細月よ
く系禽よれきり鳥の梅禽よ入りて
て小禽よいつひなる考 貝系の中和系
よなりしつたりとて入るもあやふしきこととて

うさぎとての小とりとていつひなる中入り
そのあり様すいなる中をけきり鳥とて
その中よれきり鳥長とてと光その如記
と山鶴のらうとて出せらうと
おとりの中よそのの因りていつひなる
を添よとていつひなるはき麗胡蝶
琉球とていつひなるはき麗胡蝶
やうなるハ系禽の中よ入りていつひなる
そのよいつひなるはき麗胡蝶
あひていつひなるはき麗胡蝶

形をまうけくこよ胡せん琉球志まうの
うひぬら控入たれとりりくく同属
と見ゆとの、吾國のちのねるよ出せる
もあうら控く相違地をまあひといふ
とも同くうひたりをよとまらめんこま
や難くお春鶴を和産のちうのま
きやうく控く球うくを吾國の形の
もに生せるこま地を控を業
名ら同くまひと聞ゆれとあうらま
みしとまかに入る我とのあうらま

ハシをまうけくこよ胡せん琉球志まうの
うひぬら控入たれとりりくく同属
と見ゆとの、吾國のちのねるよ出せる
もあうら控く相違地をまあひといふ
とも同くうひたりをよとまらめんこま
や難くお春鶴を和産のちうのま
きやうく控く球うくを吾國の形の
もに生せるこま地を控を業
名ら同くまひと聞ゆれとあうらま
みしとまかに入る我とのあうらま

突歎在名カ大社在肥島のこと大島なとこそ

社属といふひこみくむ程あまのちを

ひの名けのちをりてうくものあり

まひを魚虎にけまひを謝豹うらうを訓

狐鵲鳴を鶯鶯とひらり
 水子すや山いあつとのねほららうとあを
 とてつりつる潜確類書山倉之味多短
 水倉之味多長山倉之尾修水倉之尾促あり
 久ふいあつとひらり必もいひらり
 ちれもいひらりつるつるあつとねほららうと
 是よりつる味多くあつと尖つる^俗
 とはつるつるいひらりつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり

移るあ案肉つとよりつるつるいひらり
 やこれ皆山倉之尾は味多く短くあつと
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 穀は備れらり粘細く味多きあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり
 水倉之味多くあつとつるつるいひらり

集を万續後撰續松達集のついでに
續後撰松と志す一冊念深の念深
和傳と才國念の和志のこととす
家系のこととす。後撰の勅本集後撰系
此松達日誌集後撰の七松河原定
家々の抄録思ふに松を系西の法師の
系並臨わるとの抄を系西の法師の
山家系徹きたるもの松を系西の法師の
そんごり系とすといひしりきりたる
名をくまひん

和家の地着のとももこころの系松とすハ
後系松抄改録念ちた片を系西の法師の
一公の殿上人たるいり公卿朝臣等
字とすハ我中士のぬを志るなり又
の地着未詳古くとのより人々ある
そめと志るハ同一人のあつたつとす
ハ同の字とすなり
和國の三國史并、編記録物傳の考らひ
らたあまのあつたれ家のハ撰者といふ
うた國の書り三史ハ記述子百家のこひ

あまのしやまのりさうさの威ハ御者のあ伴
りのハそせを成をのせあ

とやういひつて之れと撰者のうさうい

とのあまのしやまのりさうと船恒といひ花玉抄

を園遊といひつてまこと考を地着

内こうちうし

さうに使あはか廢止してこれをとれり又

をそまの人さうい中さうのいひつを終

止さういさういさういさういさうい

内いさういさういさういさうい

まへまのいさういさういさうい
いさういさういさういさうい
後いさういさういさういさうい
まへまのいさういさういさうい
の中いさういさういさうい
あまのしやまのりさうと船恒といひ花玉抄
もすさういさういさういさうい
今本といひつてまこと考を地着
花玉抄といひつてまこと考を地着
いさういさういさういさうい

うくきくおるまは〜この一巻と申す
一巻ハくじ〜人〜れはきん〜内を
きん〜め終る目〜鳥馬馬の〜
ひれは〜

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

観文禽譜卷一

水禽目録上

はる

ま子つれ

多る津る

うすみ

柔ふり鶴

か〜り〜鶴

あひハ鶴

琉球はる

新頂つる

あ〜る鶴

か〜は〜鶴

黄鶴

シヤム口鶴

いろはる青鶴

こふ

くら鶴

う〜ま〜鶴

鶺鴒

ほうろ 海鱒 鶴

あ〜い

一人の鶴

ぶ〜い

あめらる

くら内記

海〜漫畫

あまのり黄鷺

赤のり鷺

べにのり鷺

いとろ鷺

うしろ鷺

やほ鷺

五位鷺

せがら鷺

ほろ鷺

白鷺

く鷺

山家の五位

水駱駝

水鷺

やめ鷺

紅鷺

くろ鷺

む鷺

青鷺

中鷺

ね鷺

青雞

鷓鴣

名不知附鷓鴣

こ鷺

ま鷺

海鷺

山鷺

一種

水華冠

上

觀文禽譜卷一

水禽上

沈弓

沈弓 沈弓源若菜曰若菜葉子多葉葉生てツルラツルツル
ツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツル
東雅成曰弓ツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツル
名つるなる也

あ

あ 和名辨云海俗謂能為葦箭是也 於昭宗中抄云云
とはつるをツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツル
同事ツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツルツル
あの文字のまわりをハツルツルツルツルツルツルツルツルツル
々按之能とよみハ紅頂

丹頂

丹頂 日本紀 宋丁度正字通云能同能淮南
子覽冥訓 鴻鵠鶴鶴

鳥

鳥 和名鈔云鶴鶴別名也今按之廣韻鶴
鶴別名字彙鶴鳥脊鶴別名
僧昌住新撰字鐘云鶴
作支又豆苗今按之本并

ノ造字

丹歌

丹歌 僧何某下字集云見類說
今按之見宋吳淑松閣閑談
明商瘡博間類纂等

斗祿

斗祿 人見必大曰朝鮮俗
呼為斗祿本朝食鑑

漢名鶴 明李時珍本草綱目引宋掌禹錫嘉祐本草釋名時珍曰鶴字篆文象翹首短尾之狀一云白色

高 正字通與鶴同又明方以智通雅 零鳥 明餘慶壁事物異名云零本作鸞 仙鶴 元吳瑞日食方物

仙禽 本單釋名引相鶴經 仙人騏驎 宋浮丘公相鶴經云鶴陽鳥也而遊於陽蓋羽族之宗仙人之騏驎

也 仙驥 事物異名 仙騎 明廣一成事物紺珠 仙人乘 清仁皇帝西引抱朴子 淵鑑類

仙客 明倪綰群談採餘宋李昉畜五禽名五客鶴曰仙客鷺曰雪客白鷗曰閑客孔雀曰南客鸚鵡曰西客

飛客 事物異名 長身客 同上 胎禽 本草釋名引相鶴經云鶴年六百年乃胎產則胎仙之稱以此世謂鶴不卵生者誤矣 胎仙 明彭翼山堂 胎化 明范弘典籍使覽

泉禽 陳漢秘傳花鏡 九泉禽 唐李遠詩 九泉君 典籍便覽 九泉 處士事物紺珠 九泉火鳥 同上 火鳥 明陳仁錫潛確類書 陰羽 周孔晁汲冢書目

處士 紺珠 九泉火鳥 同上 火鳥 明陳仁錫潛確類書 陰羽 周孔晁汲冢書目 陰 注鶴曰陰羽愛其陰而惡陽也 陰翬 正字通 露鶴 明卓明卿卓氏藻林 露禽

清趙吉士寄 露鳥 事物紺珠 丹歌 明胡文煥名物法言 丹頂 唐劉禹錫白居易等詩

紅頂鶴 清金其等廣西通志 還丹使 事物異名 沉尚書 作者闕採蘭雜志 茅君使者 淵鑑

玄裳道士 事物異名 青田翁 同上 灌陽公 事物紺珠 軒即 同上 蓬萊羽 相鶴經 茅君使者 淵鑑

類函引 李連詩 獨春 通雅 司祿 清徐葆光中山傳信錄琉球方言 阿麻登夫 登夫登理母都加比曾多豆賀泥能岐許延年登岐波

古事紀 名茶天皇 和賀那斗波依沓輕太子

日本紀 天武天皇 十一年九月庚子日中數百鶴當大宮以高翔

新載
注中

初雲の浦を入るのり此雲の鶴つゝ光母のんを

又云
百々

口花浦をえりて雲は鶴ふみんていふ人

百々

雲の上を飲けりて雲をいふ人

六帖

雲れを首を物なりしものさつりて雲をいふ人

家

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

雲

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

又云

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

金以

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

草根

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

所

つれ子のすまふ入る人なりしものさつりて雲をいふ人

又云

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

源人翁

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

草根

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

又云

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

所

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

又云

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

草

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

又云

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

日

雲いふ人なりしものさつりて雲をいふ人

後

南宗純胎舞鶴賦

散幽經以驗物、偉胎化之仙禽、云、文選

前

漢張衡思玄賦

鑽東龜以觀禎、過九臯之介鳥、兮、怨素意

之不逞、遊塵外而警天、兮、據冥翳而哀鳴、云、上、日

畧中

北周庾信鶴贊

九臯遙集、三山廻歸、華亭別淚、洛浦仙飛、南遊

湘水、東入遼城、

兩云飛欲舞、露落先鳴、

下畧清仁皇帝淵鑑類函

華陽真逸瘞鶴銘

相此胎禽、浮丘著經、迺徵前事、出、上、真余

欲無言、紀尔歲辰、仙門去鼓、華表留聲、云、上、同

宋蘇軾後赤壁賦

適有孤鶴、橫江、東、未翅如車輪、玄裳綉衣、戛

然、去鳴掠予舟而西也、以叟客去、予亦就睡、多一

多士羽衣、翩躚、過臨臯、下揖予而言曰、希聖

之遊、尔身、問其姓名、佯而不答、嗚呼、噫、嘻、我知之矣、

疇昔之夜、飛鳴而過我者、非子也、耶、道士顧笑、予亦

驚悟、開戶視之、不見其處、

魏曹植詩雙鶴俱遨遊、相失、東、海、傍、雄飛、竄、北、朔、雌、駕

負、南、湘、棄、我、文、頸、歡、離、別、各、異、方、不、惜、萬、里、道、

但、恐、天、網、張、

淵鑑類函

梁沈約八詠聞夜鶴、夜鶴、叫南池、對此孤、明月、臨風、振羽、儀

伊、吾、人、之、菲、薄、無、賦、命、之、天、爵、愍、海、上、之、驚、鳥、傷、雲、間、

之、離、鶴、離、鶴、昔、未、離、迥、發、天、北、垂、忽、值、疾、風、起、暫、下、昆

明、池、欲、柄、不、可、住、欲、去、飛、已、疲、云、上、同

陳陰鑑 詠鶴詩 依池屢獨舞對影或孤鳴乍動軒墀步時轉入

琴聲 清佩文齋 詠物詩選

孔德紹賦得 華亭失侶鶴乘軒寵遂終三山凌苦霧

千里激悲風心危白露下聲漸絃絃中何言斯物

變翻復似遼東 函淵

唐陳季鶴 警露詩 南國高颺動東臯野鶴鳴溪松寒暫宿露

草滴還驚欲有高飛意空聞台侶情風間傳藻

質月下引清聲未假搏勢為知羽翼輕吾君開

太液願得應皇朝 上同

白居易劉蘇列以華 老鶴風姿異衰翁詩思深素毛如鬢 我

亭一鶴遠寄以詩謝之

丹頂似君心松際雪相映維羣塵不侵慙動遠來意一

隻重千金 白房舟 潭邊霽後多清系栢下凉來足

如風秋鶴一雙船一隻夜深相伴月明中 上同

劉錫詩 丹頂宜承日霜翎不染泥愛他能久立看月未成

棲一院春草長三山歸路迷主人朝謁早貪養汝南雞 淵

宋之問詠 省壁畫鶴粉壁圖仙鶴昂藏真氣多鸞飛竟不去當

是慈恩波 詩選

姚合崔 入門石徑半高低間處無非是藥畦致得

仙禽無去意花間舞罷洞中棲 上同

雍陶 從今一去不須低見說遼東好去栖努力莫

辭仙客遠白雲飛處免羣雞選詩

唐李遠失鶴詩 秋風吹却九臯禽一片間雲萬里心泊名海

有情應悵望青天無路可追尋初來白雪翎猶短

欲去耳砂頂漸深華表柱頭畱語後更無消息

到如今同上

除宋何致雍商詞 一巖空洞之音重城月曉數隻仙禽之影

泊名落霜寒兩端

元沈右乘鶴詩贈周元初 絨誠上達魏元君俄頃神霄下鶴羣

頂煉大還丹鼎火翅霑南嶽嶺頭雲仙人騏驎

秋風遠王子笙簫午夜聞惆悵世間畱不住却

駮鸞鶴出霞零選詩

陳旅縉谿道士詩 縉雲谿上縉雲山春水流出桃花灣白頭

道士鶴為馬月明騎過居庸關同上

明張宇初冬景詩 養就還丹不怕寒獨騎芳鶴上雲端笑

談借得天孫香散作琪花滿石壇同上

和名鈔引四字字花云鶴何各互和名互流 似鶴長喙高脚

者也唐韻云鶴音零楊氏抄云多豆今批 鶴別名也

今按尔疋翼云 鶴即鶴音之轉後人以鶴名頗

著謂鶴外別有所謂鶴故埤雅有鶴又有鶴

△鵠ク、ヒ今俗ニ云
シテ、別也又正
鵠ノ、鵠ハ自ラ別
種ナリ

通雅亦云鵠即鶴本作雀或作鶴鷗其通為鷗者
非也又云埤雅本艸皆今釋雀鷗然鷗鶴一考之
轉古書互用詩從子于鷗音鶴叶白石皓々淳
于鬣獻鷗于楚舊注即雀後漢吳良傳贊大儀
鷗髮注白髮即鶴髮中漢書黃鷗下建章宮大
液池中作歌名黃鷗又別鶴操云雄鷗雌鷗則知鷗
即鶴矣云トアリム人見サダカ必大曰鶴大者高五六尺長サ
三四尺餘嘴ノ長サ六七寸ニ面蒼黑丹頂朱頰
赤目蒼脚修キ頸周ル尾白羽玄翎翅ノ裏ノ小羽
本白ク末ノ黒シ号雀之本白ト而造箭羽中此鳥千年物多シ

以テ中華ノ人食品トナサズ朝鮮ノ俗呼為斗祿禽
言シ以テ名之亦コレシ食ハス然レ正對馬ノ人釜山浦
ニ在コレヲ捕或ハ江都ニ獻ズ朝鮮鶴トイフ本朝
倉鑑

小野蘭山曰鶴ハ形大ニノ白色ソノ頂漆紅色也

故ニ丹頂ノツト云嘴ハ青綠色脚ハ蒼黑色翼
下ノ弱毛色黒シ羽翼シ歛レハ後ノ方ニ垂出テ

黒尾トナルニ似多ク

本草綱目 啓蒙

今按ルニ毛色形状總

テ必大蘭山等ガイフ所ノミトシ然ルニ鶴ト單

稱スル者ハ今クシテウトイフ者是ナリ俗々ナツル

シ以テ鶴ノ通稱トスルハ丹頂ナル者吾邦ニハ

稀ナレバナリ然レハ蝦夷地ノウチクスリトイフ所

ノアタリニハ来ルコトアリ此事寛政ノ末ニ官ニ

啓セシカバヤガテ 召命アリテ三雙ニテト

リテ獻セシナリ今猶官園ニ養ルト云 或曰

享保年間外國ヨリ丹テウシ奉ルコシ墨田

川ノ長ニアツケサセ給フ世ニコレシ朝鮮ニト呼リ又

同シ項仙臺中將宗村朝臣ニモ恩賜アリテコレシ

養ハレシカ其子中將重村朝臣ノ時安永ノ頃テ老鳥ト

ナリテアリシテ觀多ク保壽ノコレニテモ可知又八雲御

抄ニ霜ハ鶴ノ戒トテ霜ニハ苦シム者也因テ霜ノ鶴

ト云トアリ 唐ニテモ多ク戒露霜シ云リ 明陳仁錫

潜確類書ニ引風土記云鳴鶴戒露此鳥性警

至八月白露降流于草上滴ニ有聲即高鳴相

警移徙所宿處慮有變害也 宋蘇軾カ物類

相感志云玄鶴長足群飛天將霜必先鳴鶴ニ

驚露也 故ニ露鳥露禽露鶴等ノ名アリ

北周庾信鶴贊云飛欲舞露落先鳴又
孔德紹賦得華亭鶴詩心危白露下嚴折
綵絃中ナトイヘリ又周浮丘伯相鶴經云鶴者陽
鳥也而遊于陰因金氣依火精以自養金數九火
數七故稟其純陽也中雌雄相視目睛不轉則孕
千六百年則形定飲而不食而胎生與鸞鳳同羣益羽
族之宗長仙人之騏驥也南宋鮑照賦散幽經以
驗物偉胎化之仙禽

宋彭

乘墨客揮犀云彭淵村迂濶好怪常畜而鶴客
至誇曰此仙禽也凡禽卵生此禽胎生語未竟園
丁報曰鶴夜生一卵淵村曰敢謗鶴耶未幾鶴展
頸伏地後誕一卵淵村歎曰鶴亦敗道吾乃為列
禹錫嘉話所誤然淵村讀相鶴經未熟耳
漢劉向力列仙傳云周王子喬好吹笙作鳳鳴後告其
家曰七月七日待我於緱氏山頭及期果乘白鶴謝
時人而去

客等ノ數名コレヨリ出シナラハ
仙子仙禽 胎仙仙

宋浮丘
伯相鶴
經云

潛確類書引茅君傳云好道者
入廟見一白鶴入帳中白鶴者是九轉還丹使
宋林和靖愛鶴下世三普所祀也秘傳花鏡
云昔墮林和靖養鶴於西湖孤山名曰鳴臯每
呼之即至有時和靖出遊有客來訪則家童
放鶴凌空和靖見鶴盤旋天表知有客至即歸
以此為常遂以千古韻事其詩云臯禽名祇有
前聞孤影圓吃夜正分一唳便驚寥玃破亦無
間意到青雲又夜鶴卜云下和款三毛詠リ
淮南子云雞知將且鶴知夜半
春秋說

題辭云鶴知夜半鶴所以壽者無死氣于中也

注鶴水鳥也夜半水位感其氣則喜而鳴也

鶴ヲ羽族ノ長トスルハ和漢共

二同之故晉竹林七賢論云嵇紹入洛或謂王戎曰昨
於稠人中始見嵇紹昂々然野鶴之在雞羣

本草集解掌禹錫曰鶴有白有玄有黃有蒼

入藥用白者他色次之秘傳花鏡亦有天蒼有白丹頂又玄

又華頂光類黃ツル蒼ツル灰灰鶴啓蒙說小異可合方

清屈山翁廣東新語云南方之鶴皆灰色白者則小去頂二

寸許毛始丹亦能鳴舞有水鶴亦小狀類白鷺其性
通風雨則鳴而上山否則鳴而下海尋常多在

榕樹。廣人以其頂丹可貴。故曰丹歌。云云。六ノナ鶴ヲ
云似多。廣東方言云。又明高濂博聞類纂。卷之九
州鳳凰山道士趙自然。夢陰真君與柏葉一枝九
疊。食之。因而不食。神氣異常。為詩曰。常欲棲山鳥
間。眠玉洞。寒丹哥時引舞來。去跨雲鸞。問何名丹
哥曰。鶴也。曰。明郎仁寶七修續藁。調言編云。以鶴之
食物。從頂咽下。恐未然也。今人又以鶴食蛇。以足
踏蛇。七寸。待其尾繞鶴腿。然後嘴鏟斷蛇。段段食
之。予嘗親見。鶴初見蛇。口急啣尾。跌於地者數十
次。待其將死。啄而吞之。鶴頸比素大一倍矣。遂曲。

頭於翹而睡。少焉如舊矣。不如調言何所見。聞今
人之言。又如此之巧。曰。明范泓典籍便覽云。金眼者雄。豆眼
者雌。又云。鶴身別名。頸曰圓元。足曰修趾。鶴鳴曰
唳。鶴斜視曰角睐。又草木子云。鶴左右脚裏第一指
名兵爪。

野。必大云。或曰。白鶴。肉血最人。宜。今倍所謂黑
鶴。專血虛。調。平生。考。試。白。者。益。氣。入
心肺。黑者。調。血。入。肝。腎。真。鶴。ハ。コ。レ。ヲ。兼。治。ス。然。レ。凡
四十以前。血氣方剛。故。食。ノ。ヤ。モ。ス。六。走。血。發
熱。病。ヲ。癸。ス。四十以後。血氣自。半。人。故。食。ス。六。

冷痺脚氣痼疝虚汗ヲ治シ皮膚ヲ厚クシ腰膝ヲ煖
ム又云婦人血風及血暈一切冷瘡^症血虚ノ者黑鶴一
隻燒テ霜ト為メ服スルハ愈ユ或肉血ヲ去ルモ亦可ナリ又
鶴血温酒ニ入コシテ啜ル味鹹甘香氣アリ最氣血ヲ
益^ス食^{本朝}蘭^鑑白鶴肉血主治同シ

□日食方物云仙鶴

益^ス氣力去風補

肺勞弱者宜食之頂血大毒服之即死^啓清陳湜子
秘傳花鏡云鶴腿骨為留甚清越音律更準野必
大云骨ヲ取り聚メテ白塩ヲ入□燒テ霜トナス呼テ
黑塩ト云婦人血暈及ヒ金瘡折傷メ乳絶スル者

ニ最知アリト又脛骨ヲ筭ニ造ル能蜈蚣及諸蟲毒

ヲ解ス食^鑑

屎^{明葉世傑}草木子云鶴糞可以化石成塵

朮中砂石子 本草綱目ニ磨水服解蠱毒邪^{嘉祐トア}

リ東國ノ者淋ヲ患フ此ヲ煮テ汁ヲ啜ルニ驗アリト
云

卵野必大云本草所謂痘毒ヲ解スルハ未試唯
久痢ヲ治ルニ可ナリ^鑑又朱舜水云鶴益ヲ造ル
法卵ヲ巢中ヨリ取出シ沸湯ニテ煮テ又巢ニイ
ラク母鶴草ヲ含ミ來リテ卵ヲ撫ルハ生氣出テ潤

ルヲ又取出シ煮テ入置如斯ク三四度ニ及テ卵
甚大ニルナリソヲ取テ鋸ニテ平ワリ盃ニ作ル也 朱氏談綺

よかづ ハヤシ河内ニ況ニ まし 仙翁 片 方音

りべ 水 ぬ ず つ つ

漢名 鶺鴒 雅 麋 鴒 上 鶺鴒 晉郭璞 鴒鹿 宋羅願

翼 鶺鴒 明注類食 鴒將 唐顏師古 麥 鶺 本草

錯落 同注訛為錯落 雨落母 清屈翁山 赤頰 毛詩鳥獸

灰 鶺 清余三省百鳥圖 異種ナリ 物類相感志

六帖 鳥を鶺鴒の立居たりてのせよ 鳥を鶺鴒
四 鶺鴒を鶺鴒の立居たりてのせよ 鳥を鶺鴒
百を 鶺鴒を鶺鴒の立居たりてのせよ 鳥を鶺鴒
集 鶺鴒を鶺鴒の立居たりてのせよ 鳥を鶺鴒

唐杜 甫詩 楚岸朔風疾、天寒鶺鴒呼、漲沙霾草樹、舞雪渡江
湖、吹帽時々落、維舟日孤、因聲置驛外、為覓酒家壚、本集

明星 解袂從此旋、云云本集
湘江宴錢裝 白日照舟師、朱旗散廣川、中 鶺鴒 一作催

清張廷 玉詩 何必雞群爭獨立、仙禽凡鳥豈同倫、祇嫌
嬌々雲中翼、略染些々世上塵、子戴松枝長見

汝百年華表更何人身灰莫道心俱冷健翮冲霄擬有神

野必大曰真鶴ハ頂頸皆白ク頬赤ク嘴青ク嘴後

胸腹ニ至ルニテ悉ク黒シ背ヨリ尾前ニ至ルニテ灰

色帶青尾皆黒シ本朝源君美曰一種

青蒼色ノモノ、俗ニ真名鶴トイフアリ舊説ニ

マナツル一説ニ白鶴也トイヒケリ藻塩上古ノ俗

真名井真名鹿トイヒシ語ニヨラシハ白兒ヲ

呼テイヒシモ知ヘカラズ此物ハ爾雅ニ鶴鶴ト見エシ

モノ宋玉小拓ニ焚鴻鶴トイヒ景差大拓ニ灸

鶴トイヒシモノニテ古人多ク食ヒシ所ト見エテハ

マナトハ櫛八玉ノ天之真魚トイヒシガ如クツノ食フ

ヘキヲイヒシモ知ヘカラズ古俗魚菜スベテ食フヘキモノ

トイヒシモ其鶴ニ似テ食フヘキモノヲ云シ似多ク東雅蘭山曰鶴鷄ツル鶴ノ類

シ丹頂白鶴ヨリ小夕陽ツル鳥ヨリ大也頂頸肩皆白

色額頬赤色嘴ハ淺黒微青黄色喉白シ其下ヨ

リ胸腹ニ至リ悉ク黒色背ヨリ尾前ニ至ルニテ

灰色微青尾ハ灰色翼白ク脚淡赤色鳴聲短シ此

二品有筑前伊豫三作備前加賀ノ産青蒼時珍

ノ説ニ合水ノ産背灰色腹微青有ナベツト呼江ノ

産灰色也亦有灰色者集解下是也子スミツルト呼フ卵
百鳥圖ノ灰鶴ナリ今食用ノ鶴肉ノ皆此鳥ナリ蒙啓
今按ルニ明楊升菴外集楚辭ノ注ヲ引鶴ハ鶴
也ト云又 王允明三才圖會云鶴鵠關西呼為
鶴鹿山東通謂鶴俗名錯落錯落者言鶴聲
之急也又謂之鶴將鶴鹿鶴將皆象其鳴聲
也蒼色長足群飛天之將霜先知之而鳴不過旬
日而霜下爾雅言鶴麋鵠是九頭鳥今謂之鬼
東鳥云々 本草秋名時珍曰按羅願云鶴麋
其色蒼如麋也鶴鹿其聲也關西呼曰鶴鹿山東呼

曰鶴鵠訛為錯落南人呼為鶴雞江人呼為麥雞
集解類曰鶴鷄狀如鶴大而頂魚丹兩頰紅時珍曰
鶴水鳥也食干曰澤洲渚之間大如鶴青蒼色亦
有灰色者長頸高脚羣飛可以候霜又 宋蘇軾
物類相感志ス黠鶴長足羣飛天將霜必先鳴杜詩三
更鶴鶴呼又啼鶴催明星此則常鶴耳又晉陸機
毛詩草木鳥獸疏云蒼色者今人謂之謂亦類
常夜半鳴云々コレ等皆ハナクハ合ウグメ類
九頭鳥鶴ト呼者アリ又禿鶴ハ禿鷲ニ又俱ニ
同名異物ナリ混スベカラス 朱舜水曰灰鶴ツル

舜水朱氏談綺 又清余三省百鳥圖中灰鶴ト題セル者吾邦ノニナツルニ聊差フコナシコレ則李時珍有灰色者トイフニ當レリサレバ唐山ニテ常ニ灰鶴トモ稱スト見エタリ桂海虞衡志ノ灰鷓ハニヤ台鶴ニヨク合スレバ同名別種也

蒼雉味甘温主殺虫益毒狀如雀大兩頰紅頂無丹

石弟白堂食物本草

才用下血極 駟了了 正要 今按之 白堂食物

五福全書云補虛之養氣血去風保腦和氣益母又清龍居五福全書易忍實天雄服令人目明云云

目明云云

くろづ

くろづ

くろづ

くろづ 把前

漢名 陽鳥

唐陳藏器本草拾遺

陽鴉

同上

野必大云白頸赤頰紫脚騶其餘悉純黑食鑑寺

鳥良安云一種淡黑者薄墨和漢三才圖會下名和漢三才圖會縮若水ハ此ヲ陽

鳥ニ充廢物類纂松岡玄達ハ玄鶴ニアツ用藥須知蘭山モクツル

ヲ陽鳥ニ充一名キヌカヅギトシ丹鳥丹頂ハ非ス全身黒ノ頂ハヨリ赤キ者ナリ華頂

見ユシ玄鶴ニ充又クツルノ一種純黒ナル者アリト云ヘリ

又或云鳥鶴似テ色クロク口ツルト分別ニ難シ但ク

舜水朱氏談綺 又清余三省百鳥圖中灰鶴ト題セル者吾邦ノニナツルニ聊差フコナシコレ則李時珍有灰色者トイフニ當レリサレバ唐山ニテ常ニ灰鶴トモ稱スト見エタリ桂海虞衡志ノ灰鶴ハシヤ台鶴ニヨク合スレバ同名別種也

今吾邦專食用トスル者ハマナツルコト也松岡玄達曰 醬油或ハ味噌汁煮テ食フ治五痔脱肛及水腫下血極テ驗アリ食療正要 今按ニ 白堂食物本草ニ蒼雞味甘温主殺蟲毒又清龔居中五福全書云補虛乏養氣血去風保腦和急實天雄服令人

目明云

くろづ 子ぬくろづ がんづ 犯前 如畫

漢名 陽鳥 唐陳藏器本草拾遺 陽鴉 同上

野必大云白頸赤頰紫黑脚騶其餘悉純黑食鑑寺

鳥良安云一種淡黑者薄墨ト名和漢三編若水ハ此ヲ陽鳥ニ充唐物類纂松岡玄達ハ玄鶴ニアツ用藥須知蘭山モクツル

ヲ陽鳥ニ充一名キヌカツギトシ丹鳥丹頂ハ非ス全身黒ク頂ハヨリ赤キ者ナリ華華頂

見ユシ玄鶴ニ充又クツルノ一種純黒ナル者アリト云ヘリ又或云鳥鶴ツル似テ色クニコツルト分別ニ難シ但ク

鳥類 陽鳥 目明云

口ハ水田江渚ニ啄シ鳥鶴ハ其角根微紅ニテ喬木ニ棲鶴
ハ青霄ニ鳴鶴ハ鶩ヲ鼓ストイヘリ
ニ野必大カ

所謂純黒ニ有ハ未見今俗ニクロツト稱スル者ハ關東ニ多

鷹狩ノ時自ラ捉セ給ヒ毎歲京師ニ獻ゼ元モ多

クシ鶴也蘭山曰陽鳥ハゴツニ一名キフカツキ形鶴雞

ヨリ小ク頂ハ赤褐色項背白色胸ヨリ全身尾脚

皆淡黒色鶩ハ微短青黄色鳴聲ハ丹頂ニ似リ

肉味佳ナリ鶴類中ノ上品トス一種色浅キ者ヲ

ウスバミト云啓蒙今按本草集解藏器曰陽鳥出

建州似鶴而珠小身黒頭長而白又藏器本草

唐陳藏器本草拾遺 陽鳥非鷹之陽鳥矣。狀似月鶴而極小短嘴。頂白頭而全身凡脚皆白。其鳴聲。橋好云。

拾遺云陽鳥非鷹之陽鳥矣狀似月鶴而極小短

嘴赭頂白頭而全身凡脚皆竊黒其鳴聲橋

好云コレ等ノ説ニ合セリサバ若水蘭山等カコ

ムルヲ陽鳥ニ充ル者得タリトイフベシ玄鶴ハ本

草綱目鶴ノ集解ニ有白有玄トアリテ又別陽

鳥ノ出セルヲ見ルハ 同属ニメ別種ノヤウニ思

ハル下ニ載ル所ノ霜フリツル又ア子ハツルナト呼ル

者コレニ近シ又必大カ純黒ニトイヒ又クロツルノ

ハ種純黒ナル者アリトイフ又或説ニ鳥鶴クロツル

分別ニ難シトド云者ハ華頂ツルノ條下ニ載ル鳥鶴

ナルベシ 必矢曰專調血虛故婦人嗜之云々
菴本草主治焼灰酒服治惡虫咬成瘡藏

うすびみ 注上

志と少の鶴

蘭山曰形状ハ鶴鶏ニ類シ目ト菴脚トハクロツル
ニ不異 色クロツルニ較ハ浅ク漸尾ニ至リテ灰
色ナリ頂ハ赤黒毛相雜リ頭頭ハ白色翼白斑

文化九年壬申二月十三日戸田
五双其組 柘本政之丞下云者葛飾郡館野

南の候鳥類
△形鶴雞ノ如色ハ陽鳥ニ似テ薄ク尾ニ至リ
フククニシ 翅ノ霜クニ似先羽毛アリ
故ニ名ツク 奥州ニテ或今説ニ鶴雞ハ陽鳥
ト相交リテ生スト云リ

右南都候ノ禽譜

邑ニテ鷹ニテ捉シテ奉リシコアリ其形状霜フリ鶴ヨク
合ス同物ナレシ此三種皆陽鳥ノ一種也

一種ハ南都ノ候ノ鳥類ニテ有リ其形同物

色翼ニ白斑アリテ鶴ノ形ナリ

漸尾ニ至リテ灰色ナリ頂ハ赤

同物ナリ

オホヤケニ奉リシ也其

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

同物ナレシ

ナルベシ 笑曰專調血虛故婦人嗜之云
菴本草主治 燒灰酒服治惡虫咬成瘡藏

うすびみ 注上

志とりの鶴

蘭山曰形状ハ鶴鶏ニ類シ目ト菴脚トハクロツル
ニ不異 色クロツルニ較テ浅ク漸尾ニ至リテ灰
色ナリ頂ハ赤黒毛相雜リ頭頭ハ白色翼白斑

文化九年壬申二月十三日戸田

五枚其組 同ノ心 某板本政之丞下 云者葛飾郡館野

村ニテ鷹ニテ捉セタリシヲ 木ヤケニ奉リシ也其

形状シモツリツルニ 冠ケルニ 同物ナリ 同物ナリ

藤山巨形 鶴 類ニ 同物ナリ 同物ナリ

ス色陽鳥ニ較テ浅ク漸尾ニ至リテ灰色ナリ頂ハ赤

黒毛相雜リ頭頂ハ白色翼ニ白斑アリテ鶴ノ尾モアリ

ノ如シ是亦陽鳥ニ 同種ナリ 同種ナリ 同種ナリ

色ニテ鷹ニテ捉シテ奉リシヲアリ其形状霜フリ鶴ヨク

合ス同物ナリ此三種皆陽鳥ノ一種也

目録
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

ナルベシ 笑曰專調血虛故婦人嗜之云々
菴本草主治燒灰酒服治惡虫咬成瘡藏

うすばみ 注上

志と少の鶴

蘭山曰形状ハ鶴鷄ニ類シ目ト菴脚トハシロツル
ニ不異 色クロツルニ較テ浅ク漸尾ニ至リテ灰
色ナリ頂ハ赤黒毛相雜リ頭頭ハ白色翼白斑

うす鶴 霜ノ如ク是モ亦陽鳥ノ一種也

南部侯ノ會譜ニ形アツルハ如クハ陽鳥ニ似テ冷ク

ケレハ詳カニ知ラス翅ニ鶴ノ霜フリテ似タリ外ニ

志モ多クハウス白クニテカカリタル如ク也鶴ノ黒キニ白クニテ

蘭山曰形状ハ鶴鷄ニ類シ目ト菴脚トハ陽鳥ニ類シ

ス色陽鳥ニ較テ浅ク漸尾ニ至リテ灰色ナリ頂ハ赤

黒毛相雜リ頭頭ハ白色翼ニ白斑アリテ鶴ノ如ク

カ知シ是モ陽鳥ノ一種也南朝ノ類ノ物アリテト云

色ニテ鷹ニテ捉シテ奉リシテアリ其形状霜フリ鶴ニク

合ス同物ナレバ此三種皆陽鳥ノ一種也

目次
一ノ
二ノ
三ノ
四ノ
五ノ
六ノ
七ノ
八ノ
九ノ
十ノ

ナルベシ 笑曰專調血虛故ニ婦人嗜之云々
甯本草主治ニ焼灰酒服治悪虫咬成瘡藏

うすびのみ 注上

一節ニハ... 尾ニ至リテ益ウシテ翅ニ鶴ノ霜フリテ似名羽毛アリ
故ニ名ク奥列ニテ或人説ニ鶴雞ノ陽鳥ト相交リテ
生ストイヘリ 今按ルニ上ニ良安蘭山等ノ所謂
ハスバミト云者コレナルベシ 又一種
文化九年壬申二月十三日戸田
五及某組ノ鷹匠同心坂本某ト云者葛飾郡館野
邑ニテ鷹ニテ捉シテ奉リシコトアリ其形状霜フリ鶴ヨク
合ス同物ナルヘシ此三種皆陽鳥ノ一種也

アリテ鶴ノ霜フリノ如シ是モ亦錫鳥ノ一種也
南部侯ノ禽譜ニ形ヲナツルノ如シ色ハ陽鳥ニ似テ淡ク
尾ニ至リテ益ウシテ翅ニ鶴ノ霜フリテ似名羽毛アリ
故ニ名ク奥列ニテ或人説ニ鶴雞ノ陽鳥ト相交リテ
生ストイヘリ 今按ルニ上ニ良安蘭山等ノ所謂
ハスバミト云者コレナルベシ 又一種
文化九年壬申二月十三日戸田
五及某組ノ鷹匠同心坂本某ト云者葛飾郡館野
邑ニテ鷹ニテ捉シテ奉リシコトアリ其形状霜フリ鶴ヨク
合ス同物ナルヘシ此三種皆陽鳥ノ一種也

玄鶴 史記又 灰鶴 八閩通志 青鳥 同上

漢東齊朝 梟鳴既以成羣兮玄鶴引翼屏移

七諫 射狸首兼駟虞虞玄鶴舞干戚選文

同上林賦 駕鸞鳳以上遊兮從玄鶴與鶴朋

同劉向 鳥則玄鶴白鷺黃鵠鷓鴣選文

西都賦 惟茲禽之受命諒誕生於悠邈擢高距以自抗

晉桓玄 延修頸以軒矚兮頽玄以發藻通太素其如玉縱眇颺

於雲裔宣四海之難局練妙氣以道化就百年之

易促稅雲駕於三山林鸞皇於崑嶽清陳元龍歷代賦彙

縮若水曰灰鶴一名玄鶴八閩通志 一名青鳥同鹿物下類纂

イヒテ引宋范成大桂海虞衡志文今按桂海志ノ

ニヨク合セリ 松玄達ハ玄鶴ク口ソルト註ス用藥 蘭山

曰大和本草ニ丹鳥ハ其形白鶴ノ如シ色ハ黒シ頭赤

ク足黒シ松前ニ産スト云是玄鶴ナル心ノ啓蒙鶴

如斯諸說一定セズ今按ハ史記樂書云師曠

援琴而鼓之一卷之有玄鶴二八集乎廊門再奏

之延頸而鳴舒翼而舞ト見工西都賦玄鶴白鷺

ト并禰シ其他詩賦其聲ノ賞シ其舞サニ作ル者
 多シサハ所々常在ル者ト見エ吾邦ノマナクハ鶴鶴
 氏灰鶴ト云鶴氏呼ルニヤ又ハ玄字ニ似ルハ玄達蘭山
 等ガ説ノ如ククロクハ若クハ華頂ツル又ハ大和本草丹
 鳥ヲ玄鶴ト呼シモ知レバカラス和漢共同名異種ニ
 者甚多ケル不足怪古今注ニ鶴千歳則變蒼
 又二千歳則變黑所謂玄鶴也トコレハ歷數百年
 三毛毳セルヲイヘル者ナハ別事也然レハ玄鶴ノ
 名ハコレ等ニヨレルニヤ

ア子ハハル 記ニぬニシ
 全體鶴雞ニ似テハサク蒼鷺ニ比スルハ大ナリ 背ハ稍短シテ
 其端ニ鷗ノ背ニ似タリ 脚ハ淡黒シ首ヨリ胸腹ニ至リテ長
 毛アリ 垂テ糸ノ如ク 關東ノ諸州ニ時トシテ来ルハアリ
 右南部侯會譜 記及 玄鶴ノ類ニ一

わのびづ

篤信曰ク口鶴ヨリ小形色ニツルノ如シ 大和本草 蘭
 山云アリハツルハ陽鳥ヨリ甚小形色 鶴雞ニ似タリ
 背ノ本淡緑色末ハ黄色ヲ帶脚ハ淡黒色背
 ハ淺黒色腹ハ深黒色ニシテ長毛 衆ル頭ニ灰色ノ
 長毛アリ又色白キモアリ 啓 今官園ニ養ハレシ者
 ヲ見シニ大サアラ鷺ヨリ稍大シテ全體灰白喉ヨリ
 胸ニ至ルニテ黒シ頂灰色ニシテ白キ冠毛アリ眼中
 丹ク脚淡黒ナリ翎ノサキ黒シ又禽舗ノ老人ニ
 問ニ吾邦ニ稀ニ来ルハ有寛政年間大坂

ニテア雄雌ヲ養フ者アリテコレヲ見シニ總羽灰
白大羽背ノ邊ニ黒キ羽アリ胸ニ長毛アリテ
黒ツルヨリ稍小也鶴ノ形ヨリハ鶴ニ似タリ養
方ハ鶴ニカハルイナシトイヘリ

琉球ツルツル大和

篤信曰一ツツルニ似テ頭丹鳥ノ如シ大和本

コ鳥寫真ヲモ未見禽舗ノ者問ニ未詳故人ノ

と梅ニ禽舗鳥毛常ニ変リ且先者三總ヲ鶴ナシ既ニ先年

南京トイヒ又毛色形也ノカハルル島何處珍賞セリ然レ以前國ニ

イヒ朝鮮高麗琉球鳥毛等ヲ大和本草ニ

ル者甚多コ必モ各國ヨリ産セル禽舗ニテ鳥ノ毛色常

者ニアラス唯ニ鳥ノ毛色ヲナス種樹家トイヒ毛色形状ノ

ノ草木ニ余スルモ布同ルコ鳥毛家トイヒ朝鮮高麗

ノ常言カ琉球カモ亦其類カモ各國ヨリ産セル

者ニアラス唯ニ鳥獸ノ毛色ヲナス種樹家ノ草木

ニ余スルモ亦同レコ商家ノ常言也コモ其類

ニテマ、雌雄ヲ養フ者アリテコレヲ見シニ總羽灰
白大羽、背ノ邊ニ黒キ羽アリ胸ニ長毛アリテ
黒ツルヨリ稍小也鶴ノ形ヨリハ鶴コウニ似タリ養
方ハ鶴ニカハルコトイヘリ

琉球大和つお

篤信曰ニナルニ似テ頭丹鳥ノ如シ

大和本

コノ鳥寫真ヲモ未見禽舗ノ者問ニ未詳故人ノ

コレヲ薩ノ老侯ニ采翁問ニ琉球ニ總テ鶴ナシ既ニ先年

中山王鷹程名鶴ヲ贈テシニ甚珍賞セリ然レ以前國ニ

テ黒ツルヨリ稍大ク頭ス 白黒丹頂ニ似タ鶴ヲ

見シトアリ名モ不知シガモシクハコレ等ヲ大和本草ニ

載シニヤト答ラル 今按ルニ禽舗ニテ鳥ノ毛色常

ニ変リ且小ナル者ヲ南京トイヒ毛色形状ノ

カハリタルヲ鳥何鳥ヒヨトリトイヒ朝鮮高麗

琉球ナト呼ル者多シコレ必シモ各國ヨリ産セル

者ニアラズ唯ニ鳥獸ノミナラズ種樹家ノ草木

ニ命スルモ亦同シコレ高家ノ常言也コレモ其類

ナルベシ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

華頂つる

漢名 皂鶴

潛確類書

高頂少將藏スル所ノ寫真ヲ見ルニ全身黒ク眼邊

及ヒ眼中嘴脚トモニ丹ク少シク冠毛アリ又日向國高

鍋ニ得ル黒コウノ寫真及三省カ百鳥圖ヲ見ルニ事

鳥鶴ノ條 形状略相似テ冠毛トシ然ルニ諸鳥冠アリ者多

ク常ハ見エス或ハ啼或ハ怒リ或ハ驚ク時露ルハ禽類ニモ

鷺啄則絲弭鷹捕則角弭藏殺機也ト云ハ高鍋及ヒ

百鳥圖ハ其常ヲ見テ寫セシ者ナラニ歟又或説ニ白鶴冠

ナシ鳥鶴ニ冠アリ 典籍便覽ニ鶴一名ニ冠存トアリ

彼此併考ハ華頂ツルト黒コウノ同物ナラニモ知ヘカラス

水禽

外刷羽閣風前

下畧
之 淵函

唐韋應物
寄劉尊師

世間荏苒紫此身長望碧山到無因白鶴

徘徊看不去。遙知下有清都人。詩選

洞李羣玉池別封貞外郡齊雙鶴丹頂滿灑二白鶴封之高興
霜翎仙態浮曠罷政之日因呈此章

清寒谿侶雲水朱閣伴琴笙顧慕稻梁惠超遙

江海情。應携乃帝鄉去。仙闕看飛鳴。同上

同鮑溶贈峨嵋
山楊鍊師詩道士夜誦蕊珠經。白鶴下繞香煙聽夜

移經盡人上鶴天風吹入秋冥。同上

九趙孟頫
偶成竹林深處小亭開。白鶴徐行咏紫苔。羽

扇不搖紗帽側。晚涼青鳥忽飛來。同上

明湯顯祖
部中鶴詩

曲臺雙白鶴。日賦十餐錢。良為升合資。

畱滯江海年。傳呼御出入。引吭飛舞前。軒墀看

鶴人。時與小翩翩。鳳凰猶可飼。安得玳中仙。同上

野必大曰頰赤。少嘴黑。玄翎赤脚。其餘コト

少純白ナリ。蘭山曰九州白ツル一名ソテ黑

ハ仙鶴ノ大カニシテ頂頰淡紅色嘴脚モ同色

全身潔白ニシテ只翼ノ端六七羽黑シ故ニ

袖グロト呼張カ六黑色見エズ味ハ下品ナリ

今按ルニ奥州ニモ稀ニ有之袖グロト呼リ江戸

ニテイフ白ツルト同物ナリ純白ナリ者ハ未見

漢書云。宣帝即位。尊孝武廟為代宗。所巡狩至郡國。皆立廟告祠。代宗廟。日有白鶴集後庭。石晉鄭緝之永嘉郡記云。有洙沐溪。野去青田九里。中有雙白鶴。年々生子。長大便去。只惟餘父母一雙。身精白可愛。多云神仙所養。已白鶴中最精白者。上見之吾邦。白鶴一名八清陳湜秘傳花鏡云。白鶴其形似鶴而大。足高三尺。軒於前。故後趾短。喙長四寸。尖如鉅。故能水食。赤頰青爪。修頸凋尾。粗膝纖指。白羽黑翎。行必依洙渚。必集林木。卜コ說合セリ。本草集解。毛有白有玄。

入藥用白者。白鶴血益氣力。補虛之。去風益肺。晋郭璞注。穆天子傳云。天子至巨蒐氏。獻白鶴之血。飲之益人氣力也。云云膏。本草從新云。酥炙入滋神藥。

漢名

黃鶴

本草集解。禹錫カ。有黃ト云者。コレナシ。

唐李嶠詠鶴詩。黃鶴遠聯翩。從鸞下紫煙。翱翔一萬里。未去幾千年。已憩青田側。時遊丹禁前。莫言空

警露猶冥一聞天

詠物詩選

唐沈詮期黃鶴詩

黃鶴佐丹鳳。不能群白鶴。拂雲遊四海。弄

影到三山。遙憶君軒上。來下天池間。明珠世不
重。知有報恩環。同上

唐王維送別
雙黃鸝歌

天路未分雙黃鸝。雲上飛兮水上宿。無翼和
鳴整羽族。不得已忽分飛。家在玉京朝紫微。淵

賈島黃鸝下
大液池詩

高飛雲外。鳴下向禁中池。

下同上。二詩俱
畧。鶴條中。收。

黃鶴ノ状未詳

唐圖經云。費禕登

瓌

仙掌。駕黃鶴。返憇於此。遂以名樓。南北祖冲之
述異記云。荀瓌事母孝。好屬文及道術。潛
樓却粒。嘗東遊憇江夏黃鶴樓上。望西
南省。物飄然降自霄漢。俄頃已至。乃駕

鶴之賓也。鶴止戶側。仙者就席。羽衣虹裳。賓
主歡對辭去。跨鶴騰雲。眇然煙滅。宋

張君房雲笈七籤云。朱庫者不知何許人也。不飢
不渴。強丁不老。忽云應得仙。剋日發與親友別。當

有迎者。須臾有兩黃鶴下庭中。庫便度世。又有三
黃鶴相隨。飛向東郭外。成三黃衣道士。携手東行。

コレ等皆神仙怪異ノ事。コトハ信スルニ足ラズ。ト
イハレ本草集解 有黃有

蒼トアルハ鶴中一種黃色ト左者アリ。トハ論然
レ氏丹頂及白鶴蒼鶴ノ鶴トトノ如ク常ニ多在

者ニアラサルニヤ詩賦ニ載ル者モ不多又其形狀
毛色等委多記セシ者未見

然

往年播磨國ニテ捕名ツアリトテ其寫真ヲ見
ルリ或云全身柳色ニ桂海虞衡志ニ所謂灰
鶴ニ似多リト同物ナラヤ否ヲ知ラズ今按ルニ唐山
ニテ黃鶴ト云者是ナラニ狄灰鶴ハシヤ台鶴ト
イフ者其狀ヨク合セリ今コノカキ鶴圖ハ

頭背胸腹黃赤色ニ腰ヨリ尾ニ至ルテ
白シ頂及背ニ微ク黒毛アリ眼辺紅肉アリテ目ノ
郭黃也翅根蒼黃羊ヨリ而下ハ色稍淡ク尾

カ、ル羽節ヨリ末白ク翅端黒ク嘴黒ク黃ク帶
脚ハ黃色也シヤム口鶴ノ毛色ニ粗似名氏自ラ
別種ト見ユ

シヤム口鶴 蘭舶暹羅產也 **漢名** 灰鶴 宋范成大桂海虞衡志

一ナヅルノ一種ナリ桂海虞衡志云灰鶴大如鶴
通身灰慘色去頂二寸許毛始丹及頸半亦
能鳴舞君美曰此物海舶載來ルヲ見シトモ有
ナリ志ニシルセシ所ニ違フ所モナシ俗ニ暹羅鶴ナ

トイフ即是ナリ 車雅鶴 又將野家 養川院 藏ス所ノ

圖モ亦能合ス然ル寸ハ灰鶴ノ名ヲ不知ノ暹羅ヨリ
 来レルモノヲ稱セシガ其名トナリシナラシ今其圖ヲ熟ス
 ルニ頭ヨリ頸ニ至ルニ丹紅目ノ郭黄ニ眼中赤シ
 嘴淡黄ニ黒ヲ帯頸ヨリ下背及胸腹蒼灰
 色腰ヨリ而下尾ニ至ルハ色稍淡ノ羽端白シ脚ハ
 駟色ナリ其圖ノ旁ニ記ノ曰真奈
 鶴ヨリ大也總躰猛シキ鳥也ト己本草集解時
 珍曰亦有灰色蒼色者トイフニ似タリトイヘトモ
 暹羅ヅル桂海志ノ灰鶴ニ集解ノ灰色蒼色者
 トイフハニナヅルノ一種ナルベシ

いろいろ

仙臺候写真唐言
スエホトの原

漢名 鵠鶴文選

青鶴

洲鑑類函 先秋鳥ト
同名異種ナリ

碧鶴

佩文韻府

晋左思
吳都賦

鵠鶴鵠鶴鵠鶴鵠鶴文選

元楊維
禎詩

童子罩衣碧鶴立美人兩袖彩鸞飛佩文韻府

仙臺候藏圖ニ在頂頸羽ニ至ルニ淡青碧眼邊紅
 肉アリ嘴根及喉白シ背灰青臀ノ辺ニ白羽數莖翼
 青碧黒白ノ羽相雜ノ翅端淡黒風切及尾灰青色
 嘴脚紅雌雄共同ト記セリ此等ヤ青鶴ト云者ナラシ
 文選注鵠鶴出南海桂陽諸郡洲鑑類函鶴部
 云志朝鮮知異山中有青鶴洞其境四隅皆良

○虚癯

田沃壤。宜播壤。惟青鶴棲息其中。故以為名。トアリ
蘭山、青鶴之禿鷲、一名トス同名異種ナリ云

二ノ
言方ハ
和名抄俗ニ大

者一鶴鶴カ
此ノ
出羽
方言

へら
能後久
其又

鶴
鶴ノ一名トナレトモ洋々云
ハ鶴俗ノ
トナレトモ

鶴
本草和名云白鶴似鶴巢樹者陽鳥鶴黑色類
曲者也和名於保止利類ノ類字ノ誤本草集解ニ曲頸者
為鳥鶴トナレトモ

漢名 鶴
本草綱目引梁陶弘景名醫別錄
鶴雀 晋陸機詩疏
鶴鶴 同上陸疏廣要

老鶴 清董兼忠盛京通志
鶴兒 明蔣德璟養經
烏童鶴 同上
烏尾鶴

冠雀 事物紺珠又典籍便覽 同名アリ別種
負釜 本草釋名引詩疏
負金 唐

胸釜 事物紺珠
竈君 同上
皂君 雅適

皂帔 同上
早郡 同上
皂裙 陸疏一本作卓裙
黑尻 同上
灰鶴 同上

背竈 白氏六帖
背雲 典籍便覽
阜郡 名物法言
鷓雞 養經
鸞鳥 同上

墜翠 同上
瓦亭 仙宋陶穀青異錄
大隱鳥 明俞孝通盧重禮朴允德鄉藥

本草 新刊爾雅翼云鶴白身黑尾翅別名黑尻皂裙胸釜背竈以背尾翅黑為名也

續日本紀 聖武
天保十三年三月辛丑攝津職言自今十四

日始至十八日。有鶴二百八。來集宮內殿上。或集樓閣之上。或止太政官之庭。每日辰時始來。未時散去。仍遣使鎮謝焉。

夫本集云、
五年百有、
日之安、
百有

詩風 鶴鳴于垤。婦嘆于室。

朱註鶴水鳥
似鶴者也

宋范成文
昌園雜興 斜日低山片月高。晡餘行藥繞江郊。霜風

拂盡千林葉。閒倚筇枝數鶴巢。

詠物
詩選

同文同鶴
詩六言 常惡靜時鳥。鷺不驚飽處。蝦魚與我間。

正相似。問爾樂復何如。同上
雜鳥

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

和名鈔鶴 音館和名 於保止利 水鳥似鵠而巢樹者也

野必大曰鶴ハ似白鶴 鶴ノ誤 寫欣 長頸頂丹カラス翅

黒ノ端羽黒ク中羽ノ表汰白光アリ霜ノ地ニ布

比ス呼テ霜降ト号ク箭羽ニ造ル 今按表白ク羽ノ重リ 今所ハ黒クシテ白キ

五ノハ兩霜フリテ赤ク 眼汰青目ノ邊及ヒ嘴根色赤シ嘴

太ク長サ六七寸ニ黒シ脚赤ク爪指鶴ノ爪指ニ似リ

尾純白常ニ翅羽ヲ濼ノ見エス能高木及莖觀ノ

上ニ巢居ス其飛層霄ニ奮ト旋遠如陣仰天

蹄鳴スハ必雨スルヲ主ル其鳴非聲出用テ以相鳴ス

性無聲舌モ亦短小也 三三 銚 貝原損魁曰鶴ヲ

トノトクヒ一物也本草陶弘景ハ黑白二種アリ

夏ノイヘリ日本ニ一種アリ別類トシ田野ニスニ高

木ニ巢ヲカケ蛇ヲヨク食クハトハクナハクセ也

太和本草 松岡玄達曰鶴正名クヒ又名コウニ俗鵠

クヒト訓ス 非也 陸璣疏ニ似鶴而大長頭赤喙白身

黒尾翅一名黒尻一名背竈ト是也今俗ニシク名

ト呼暗ニ黒尻ノ名ニ符ス京都近境伏見淀及

嵯峨ナトニ多ク集ル其他餘國處ト多ク説文ニ鶴

小雀也ト別 是一種詩ノ鶴ニアラス 詩經名物 辨解

兩説如斯トイハ臣鶴ヲクヒト訓スル説不穩當

白石モ古書ヲ引テ鵠ヲクヒト訓シ鶴ハオホトリ俗ニ
コフツルニコフノトリトイフ也鵠ニ似ルヲ謂フニ東ト
イヒ蘭山モ魚蝦ヲ食ヒ又好テ蛇ヲ食フ故クヒ
ト云クチナクヒノ畧也ト大和本草ニイヘリ然レ古書
ニ載ル所ノクヒハ鵠ニアラスト云啓蒙 今
コノ説後ノ陸疏廣要ノ鶴鶴ノ名モコフツルノ俗
稱ニヨク合セリ一名ニ出セル典籍便覽ノ冠雀ハ爲
鶴ニナラニカ白鶴ハ冠ナシ晋張華博物志云
鶴水鳥也。巖石周繞卵以助燥氣。故方術家以鶴
巢中巖石爲真物也。又宋陸佃埤雅云。泥其巢一

△通雅五其巢一傍
爲池合水養魚
化

傍爲池以石宿水。今人謂之鶴石。又云巖石温。
觀石涼。ト吾邦鶴巢多クニ巖石鶴石等アリ
未聞又禽經ニ人採巢取鶴子六十里早能羣飛
激雲。雲散歇ノ説アリ本草集解時珍曰。寥廓之天
陰陽升降油然作雲。沛然下雨。區區微鳥。豈能以
私忿使天壤赤旱耶。况鶴乃水鳥。可以候雨子。作池
取名之説。俱出自陸機詩。疏張華博物志。可謂
愚矣。方以智通雅ニモ奉前説 考之不驗
トイヘリ又云。江南謂群鶴旋飛爲鶴井。王應麟詩
考異。雀鳴于垓。引説文曰。小爵也。或是爾雅鶴鶉

山鳥類
鶴

鷓鴣子。鶴鷓音歡。團古人因物安名。隨手借書而忘其相碍。埤雅云。鶴善旋飛薄霄。漢與鶴之成列至異。故古之陣法。或願為鶴。或願為鷓。秦王嘉拾遺記云。鶴能聚水巢上。故人多聚鶴鳥。以禳火災。今寺院十之八九。屋上必有鶴巢。具之設此者。アリ。禳災意尤。清異錄云。鶴多在殿閣。鷓尾及人家屋。獸結窠。故或有呼瓦亭仙者。野必大。肉味粗硬。羶臭。人不敢捕。之中風濕熱脚氣赤白痢疾及久瘡者。且用之。專婦人諸病。調之。鱧篤信曰。食物本草。能食蛇。故有

毒ト云。今試之。味モ亦不佳。不可食。陳藏器曰。骨入沐湯。浴頭令髮盡脫。更生也。又穀樹木國俗。鶴ハ能婦人血道ノ病ヲ治ス。ト云。未試用之。俗説イフカシ。此説本草諸醫書見ク。不可信。有毒ノ物不可食。本草。

○陽鳥 鶴 本草

くろこ薩摩方言。漢名 烏鶴本草綱目。黑鶴百鳥圖

清鄂爾泰詩。老鶴經春未養雛。皂衣襪從影偏孤。朝來飲

啄鳴千垵。疑是高樓屋上鳥。百鳥圖

水禽

海其有災乎。夫廣川之鳥獸常知避其災也。是歲海多

大風。

左思

鷓鴣避風候。鴈造江。

文選 爰居海鳥文如駟

昔日曾者瑞應圖。萬般祥瑞不如無。摩訶池

上分明見仔細。有來是那胡。州函 引蜀何光

清野雨

不接山顛住水濱。昂然類鶴喜長鳴。頭童

酷似衰殘老。舉步蹣跚扶杖行。百鳥圖

蘭山曰鷓鴣。オホトリ一名ウシトトリ。水鳥

十。偶海濱。ニ来ル。アリ先年備前岡山少海

濱百間川ト云地ニ来リ五六日。後飛去ト云

傳。高サ六尺許トイフ。一説ニ一丈許トイフ

○爾雅云。爰居雜縣
郭注國語曰海鳥漢
元帝時琅邪有大鳥
如馬駒時人謂之爰
居

△出南方。有大湖
洶。處其狀如鶴而
大。

形鶴ノ如。灰色ニ青色ヲ帶。鳴聲ホウク

ト云ガゴトシ故ニ上人オウ五郎ト稱セシト云。房

刈及肥後ニモ来リシ。アリ筑前ニモ時々来リ翼張

レハ二三間モアルコシ。貝原翁縮氏ニ答ル書ニ見タリ

一名青鶴。揚州府志 啓蒙コノ貝原ノ書今按ニ古今注云

杖老秃鷓也。狀如鶴而大。長頸赤目其毛辟水毒。

大者頭高七八尺。善與人闘。好啗蛇。脯炙食之益

人氣力走及奔馬。本草釋名。時珍曰。凡鳥至秋毛

脫。秃此鳥頭秃如秋。銜。老人頭童及扶杖之狀。故

得諸名。集解時珍曰。秃鷓水鳥之大者也。青蒼

色張翼廣五六尺舉頭高六七尺長頸赤目頭頂皆無毛其頂皮方二寸許紅色如鶴頂其喙深黃色而扁直長尺餘其喙下亦有胡袋如鷓鴣狀其足爪如雞黑色性極貪惡能與人鬪好啖魚蛇及鳥雞詩之有鷓鴣在梁卽此自元入我朝常賦猶有鷓鴣之供獻按飲膳正要云鷓鴣有三種有白者黑者花者名胡鷓鴣其肉色亦不同也又案景煥問詵云海鳥鷓鴣卽今之秃鷓鴣其說與瓊氏吳紀所謂鳥之大者秃鷓鴣小者鷓鴣相合今遼東鷓鴣或飛來食物本草未作近市人或怪駭此又同魯人怪鷓

鷓之意皆由不常見耳通雅云鷓名秃鷓鴣一名扶老或以為爰居又云俗曰鷓鴣如鷓鴣如雞取其毛為鷓翎又以秃鷓為急就章之乘風卽爰居漢元帝時御郡有大鳥如馬駒時人謂之爰居智則謂以馬駒鳥當魯爰居豈詎是邪秃鷓水鳥較近耳急就注一名雞縣乃因爾雅也樊光云似鳳凰皆非秃鷓一名扶老見古今注此等ノ説ニヨリテ爰居鷓鴣扶老ヲ秃鷓ノ一名トス縣乘風等ノ當否猶識者ニ可圖採蘭雜志云山中老人以秃鷓頭

○馬駒鳥、鷓鴣鳥一名
玩蹄雞ノ一ナリ

形刻杖上謂之扶老以此鳥能辟蛇也。今注以禿鶩
為扶老甚謬。有猶識。可尋又百鳥圖。所載鶩
鶩一名扶老。ト凡者ヲ見ルニ鶴ニ似テ大背ヨリ羽
ノ處ニテ青蒼風切ト膝ノハリ蒼褐翅端及尾ハ又
青蒼ヲ尾短頸ヨリ上禿テ。項ノアリ微シ如
者ニハラニ見エ眼胞紅暈ア目ノ郭黃眼中ハ淡青
也。嘴太ク長ク端尖シ色黃テ帶赭。喉ニ如胡袋者
アリ。胸紫褐ニ腹白ク淡黒キ豎彪アリ脚長ク
灰色ニ帶微紅。集解載ル所ト大方符合ス。
漢書五行志云。漢昭帝時有鶩鶩或曰禿鶩。集昌

邑王殿下。王使人射殺之。時王馳騁無度。故青
祥見也。コレヲ以シテハ其狀鶩鶩。吾邦俗ニカラシテウニ似
オホトリヤト云者
クニ鳥也。ト見エ。唐李延壽北史云。正光二年八月。獲禿
鶩於宮內。詔以示。崔光表曰。此即詩所謂有鶩在
梁。解云禿鶩也。貪惡之鳥也。川澤所育。不應入於殿
庭。臣聞鶩鶩暫集而去。前王猶為至誠。況今獲之
宮禁。方被畜養。予。明帝覽表即棄之。隋志
云。周大象二年。有禿鶩集洛陽宮太極殿。宋敏求
長安志云。唐昭宗光化三年。有禿鶩鳴於昭敬殿中。
蜀何光遠鑒戒錄云。王蜀通政元年。有大禿鶩颺

於摩訶池上。顧賈時為小臣。直內庭。潛吟一詩云。
昔日曾看云云注上。又同名ノ異物也者。了臺灣
府志引臺海采風圖之有鳥鴛似八哥而通
體皆黑。喙如錐。尾長飛最疾。鳴如黃鶯。善作百
鳥聲。此雖有鴛名。蓋百舌之旗。以鴛為名。常臺
海方言ハニテウノ類ニヤ未詳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

青鶴 注上

鵝鶴 續脩臺
灣府志

食蛇鳥 同上

續脩臺灣府志引臺海采風圖云。鵝鶴俗
呼食蛇鳥。狀鶴畧小而短尾。周身毛羽淡紅色。
專食蛇虺云云。コレモ秃鶻ノ類歟。飲膳正要所謂
三種中有花者。ト云ノ属ニヤ

没モウトウノ轉

漢名 鰲鱷 本草
綱目 裁王鳥 同上 裁王鵬 廣東
新語 海鶴 明吳
道南

秘鶴頂 本 鷓鴣 同上 鷓鴣 唐段成式
陽雜俎 鷓鴣鳥 明李賢等
大明一統志 鷓鴣鳥

學海群 象鷓 通
雅 玉粹 水禽

蘭山曰和産也異國ヨリ頭骨ヲ来ス用テ器トス俗
此ヲ鳳頂頂或類トイフ黄色ニテ瑪瑙ノ如シ一方ニ垂キ
眼アリ二方眼アル者稀ニ在リテ兩方ト云上品トス無
眼ハ下品也壓中捺子ニス近來和蘭人此鳥ヲ持来リ
シトアリ鶴ニ似ル者也啓寛政十年十月ホウテンノ嘴リト
イフ者ヲ見シニ長サ尺許其色黄褐本フトク未夫リ
テ下ニ向フ一鷹ノ嘴ノ如シ區ニノ幅廣ク其幅三寸許
上嘴ノ上ニ別ニ嘴ノ如キ者アリ折名ニヤ其状サタメテ
ラス嘴根ニ孔アリコレ鼻孔ト云歟コレヲ預リシ人ホウ
テンナリト云ツクヘシトイヒシガ其状集解等ノ説ニ似

レ庄黒色光瑩如漆ト云者合ズ又上嘴ノ上ニ嘴ノ如キ
者有ルイモ諸書ニ見エサレハ的モリトモ云難シ憶フニ
ハレトイ喜鵲ノ嘴ノ如ク歟事喜鵲ノ條ニ出ヤリソノ頃
吉田侯ノ話ニ

一異也トイハレキ這等ヤ真ノホ

ウデニナラト思ハレ蘭山カ見レ頭骨モ嘴上ニ嘴ノ如キ
モノハナカリシトイヘリ本草集解劉歆期交列志云
鰲鱗即越野鳥水鳥也出九真交趾大如孔雀喙
長尺餘黄白黒色光瑩如漆南人以為飲器羅山
既云越王鳥状如鳥

可受二升許。以為酒器。極堅緻。不踐地。不飲江湖
不啜百草。不食魚。唯啖木葉。真似薰陸香。山人得
之以為香。可入藥用。明楊慎丹鉛錄云。鰲鱉即今鶴
頂也。明董一成事物紺珠云。鶴頂鳥大於鴨。毛黑長
頭長嘴。腦骨厚寸餘。外黃如蠟。裏赤鮮麗可愛。堪
化帶。出三佛齊。

典籍使覽云。外紅色裏如黃蠟。嬌黃可愛。
通雅云。竺真羅山阮鰲鱉。真似薰陸。山人以為香。
入藥治瘡。此鳥又名象鵠。言其大也。人因化鷄案。

典籍使覽云。外紅色裏如黃蠟。嬌黃可愛。
通雅云。此鳥又名象鵠。言其大也。人因化鷄案。
馬歡瀾海勝覽云。舊港鶴頂鳥大如鴨。毛黑。脰
長。腦骨厚寸餘。肉黃。外紅。俱鮮麗可愛。

蘭山又引秘笈海鶴。以一名卜。明黃表海語云。
海鶴大者脩項五尺。訖翅稱是。吞常鳥如鯨魚鱈
淵鑑類函云海鶴。

者

成化間有至漳列。漳人射殺之。
復有以頂貨者。類洵河而銳味。雄大雌小。晝啄
於海。暮宿巖谷間。島夷人持小鏢。月夕則伏於
鶴常宿所。擇其大者刺之。平旦有獲五六頭者。
乃剝其頂。售於舶。估比至閩廣。值價等金玉。

又神異經云。西海之外有鵠國。男女皆長七寸。
為人自然有禮。好經論。跪拜。壽三百歲。人行如飛。

春鈕

爾雅本草釋名鈕作鈿

鶴鷁

獨壽

詩義

雪客

宋李昉五客名白

陸機詩疏云齊魯之間謂之春鷁遠東吳揚皆云白鷁鷁曰雪客是

昆明

秘傳花鏡

風標公子

事物異名

荻塘

女子上碧繼翁

天中記又唐劉燾樹萱錄

篁棲叟

樹萱錄

出廠栖叟

事物異名

巴東道士

宋劉義慶函明錄

先至鳥

黎州圖經

虛々

事物異名

胡王忽真

事物異名蒙古名

舊事紀天

知天稚彦亡則疾風飄舉尸到天即造

喪屋而河雁為持頰頭者以鷺為持掃者

掃持日本紀以川鴈為持頰頭者及持帚者

古事紀作喪屋而河雁為歧佐理持路鳥為

川鴈為持頰亦為持帚者文德實錄齊衡三年十一月戊辰有鷺集版位下

記異也

萬葉池神カ士舞梓吟持意吉麻呂

水まわりの淀の川せき立流るるもあそもたぬぬるる

いさやほの流の流るる心地すまひくぬぬるる

同 言流るるゆゑの杜れ流るるもひより八折とあそもたぬ

千歳名所たるつ子にゆたの敷にけいそかゆさのいふけする

右物名かきたのいろや右木の杜を名園とす

皇立ちたけゆるる杜の枝とけさゆさのあそもたぬ

玉皇 田面と花山の中での流るるあそもたぬ

月夜
花中

山本北田西より五丁の邊より切らるる此一むす

伏見院
柳亭

白雲

をさや岸北柳より流るる水もたぎる 河風吹

後鳥羽
柳亭

拾玉

すこたかかして河原の胡風をみればけりて流るる水

百々

これぬきといふ田の池と立流るる水もや寒き柱の祝

本流

秋歌

七夕のよ向かうしそのよと秋と争あつ流るる水

実政

口

すみうらまの二葉は外なるやあはういとわら白流

後鳥羽院
柳亭

口

西より流るる水もよとぬいの水草のまて流るる水

道徳院
実政

口

行へり入江の松もなる水もあはれ流るる水

同

秋歌

さしはれぬ水の流るる水もあはれ流るる水

同

秋歌

くはりむし神あつ流るる水もあはれ流るる水

河津

秋の流るる水もあはれ流るる水

河津

夕の流るる水もあはれ流るる水

神楽

いほもともあがりかいつとて流るる水

早秋

いほもともあがりかいつとて流るる水

早秋

いほもともあがりかいつとて流るる水

早秋

いほもともあがりかいつとて流るる水

早秋

いほもともあがりかいつとて流るる水

詩陳風 無冬無夏值其鷺羽 無冬無夏值其鷺翻

宛丘 朱注翻 鷺羽也

振鷺于飛 朱注振鷺 于彼西雝 雝澤

○黃鸝

漢班固 西都賦

鳥則玄鶴白鷺 鳩鶴鵠鸚鵡鳧鷺鴻

唐蕭穎士 江有楓蒹

有鳥有鳥 粵鷓與鷺 浮滄戲渚 皓然

潔素 山堂 群考

唐李白白 白鷺下秋水 孤飛如墜霜 心閑且未去 獨

泣沙洲傍 洲銘 類要

白鷺拳一足 月明秋水寒 人驚

遠飛去 直向使君灘 上同

雙白鷺 准陶詠 雙鷺應憐水滿池 風飄不動頂絲垂 立當

青草人先見 行傍白蓮魚未知 一足獨拳寒雨

衰數聲相叶 早秋時 林塘得爾須增價 况是

詩家物色宜 詠物 詩選 霜衣雪髮青玉卮 群捕魚兒溪影中 鷺

飛遠映碧山去 一樹梨花落晚風 同函

唐盧仝

鷺鷥詩 刻成片玉白鷺鷥欲捉纖鱗心自急翹足

沙頭不得時傍人不知謂閒立

詠物詩選

張喬鷺鷥詩

前刀得機中如雪素盡為江上帶絲禽問

未相對茅亭下引出煙波萬里心

元稹和北戎書鷺鷥飛詩

踏鷺鷥何處飛鷗鷺難久依清

江見底草堂在一點白光終不歸

劉錫白鷺鷥詩長短句

白鷺鷥兒最高拾毛衣新成雪不敵

衆念內喧呼獨凝寂孤眠芋之草久立潺之石前

山正無雲飛去入遙碧

同上山堂肆考作山前

雙鷺詩 雙鷺雕籠昨夜開月明飛出之庭隈但教

綠水池塘在自有碧天鴻雁來清韻呼霜歸鳥樹

素翎遺雪落漁臺何人為我追尋重勸溪翁酒一杯

宋揚萬里晨炊 清谿欲下影先翻隻鷺還將雙鷺看

綠玉脰長聊試淺素瓊裳冷不林不寒

頭若瓊鈎淺曲散如珀石管深翹湖上水禽

無數其誰似汝風標

同文同崔白畫 疎葦寒鷺詩 踈葦雨中光亂荷霜外凋多情惟白

鳥常此伴蕭條

昨夜新霜冷鈎磯綠荷消瘦碧蘆肥一江

秋色無人問盡屬風標雨雪衣

明張以寧題尚
仲良畫鷺卷

滄江雨疎々翻飛春鋤光樹如人立欲下

意躊躇明年柳條長遮汝行捕魚詩選

同王贈湘江絕句同舟白衣人雪色何施々忽有飛來者方知

是鷺君羊同上

和名鈔鷺唐韻云鷓鴣音鋤白鷺也雀禹錫食

經云鷺音路色純白其聲似人呼喚者也野必大

曰鷺大小アリ林棲水食潔白如雪細頸長脚高

翹り遠飛喙黒ノ長ノ頂有長毛如絲毳々然身毛

散々垂テ如蓑故哥人號蓑毛每窺魚テ食飽

則拳足立唐雍陶所謂一足獨拳寒雨裏是也

或ハ群飛ソ下ル寸ハ花ノ亂落カト杜牧所謂一樹梨

花落晚風コレ也能形容之鑑篤信曰鷺小サキ且

趾黄也地鳥ナリ異邦ヨリワダラス夏月最美大和

玄達曰多識論帶絲禽異名アリ典籍便覽碧繼

翁巖栖叟ノ名アリ本草綱目脱其餘異名多シ

鷺類數品アリ大サキハ頭無絲アシサキハ色蒼五

位サキハ海岸ニ多ク鳴聲喧シ星コ井ハ有小白斑

溝コ井ハ常ニ田壟ニ栖ハラサキハ羽毛灰色此類尚

多ク共ニ別ニ漢名アリ名物蘭山カ啓蒙ニモ數品載

各條ニ記之今按ニ鷺ハ總名ナトサキト單稱ス者ハ

小也其形狀必大等力云所如脚色差老嫩
ヨレ也亦雅云鷺春鉏郭註白鷺也頭翅背上
皆有長翰毛今江東人取以為睫攤名之曰白鷺
線陸疏云鷺水鳥也好而潔白故謂之白鳥齊
魯之間謂之春鋤遼東樂浪吳揚人皆謂之白
鷺青脚高尺七八寸尾如鷹尾喙長三寸頭上有
長毛十數枚長尺餘毳然與衆毛異好欲取魚
時則弭之今吳人亦養焉 本草釋名時珍曰禽
經云鷺飛則霜鷺飛則露其名以此少于淺水
好自低昂如春如鋤之狀故曰春鋤 張華曰

宋
劉義慶

鷺小不踰大飛有次序百官縉紳之象詩以
振鷺比百僚雍容喻朝美 幽明錄云巴東
有道士事道精進入屋燒香忽有風而至家人
見一白鷺從空中飛出而住遂失道士所在唐劉
焯樹萱錄云別人賈傳於鏡湖泊舟夜月縱步
於清流芳荷中見二隻並語一曰碧繼羽一
曰篁棲叟相對吟詩賈遽損之化為白鷺飛
云 潜確類書云風標公子杜牧之晚晴賦復引
舟于深潭忽八九之紅芰嫣然如婦欵然如女
墮蕊采黠鬱顏似見放棄白鷺潛來兮逸風

標之公窺此美人兮如慕悅其容媚 明彭大翼 山堂肆考

云禽經鷺啄則絲偃鷹捕則角弭藏殺機也

又云鶴好霜鷺惡露 秘傳花鏡鷺鷥鷺ノ條ハ

生而喜露視而有胎人多養於池沼間若家禽

之刺擾不去每至白露日如鶴之蹇騰而起其

性使然也一惡露ハ喜露ト云テ揚スルガ如シト

イハ凡必竟白露ノ時蹇騰スル貌ヲ見ライヘルナク

鶴ノ条ニモ鷺露トイヒ又戒露ナトイヘルト同意ナル

ベシ 又郭注ニ所謂睫羅 本草集解 羅作羅 名之曰白鷺縷ト

トアル者則吾邦ニテ衰毛ト呼者也蘭山曰睫羅

ハ帽ノ一名ナリ鷺ノミナゲラ用テ帽ニ造ルヲ鷺縷

車物 トイフ一名白鷺縷 蘇氏韻輯 如是啓蒙ニ載ナリ

今按ルニ吾邦ニテモ此ニ衰毛ヲ取テ羽扇 俗ニフクサ扇ト

ニ飾リ或ハ 柱ニ掛クニ造リ或ハ塵尾ノ屬ニ造ル予モ亦兩ツ

ナカラ藏之 山堂肆考云修靜扇南史張融年

弱冠同郡道士陸修靜以白鷺扇遺之曰此異

物奉異人又 集韻羅鄰知切音離接四離

白帽也トアリ 一種

一ノハハ鷺ノ俗稱 島小巾笈 禽鋪

野必大白鷺ノ小丸者俗ニ一盃鷺ト稱ス肉

少々漸満一盃ノ謂字食 蘭山曰形小又脚黄
 色也最小尤者ヲ一盃サギト云啓 忠詔朝臣ノ
 説ニ小鷺中ノ一種ナリ常ノ小鷺ヨリ稍短ク
 太ク也脚モ小サヤハ脚黒ク蜘蛛手緑黄也一年霜ヲ
 踏テ黄トナル此ハ蜘蛛手始終黒シト
 必大曰凡白鷺肉味輕淺脂少最足食夏
 月宜食之治虚瘦益脾補氣專止自汗盜
 汗自汗不止白鷺一隻牡蛎及肉一箇焼テ
 為霜酒調下食 玄達曰熟食之止自汗盜

汁極メテ妙ナリ食涼
要

白鷺白鷺ノ大ナル者大鷺ト云
白鷺

漢名 白鶴子 本草集解引 鷓鴣 同引拾遺鷓鴣
三輔黃圖等 同名異物ナリ

鷓鴣玉 三輔黃圖 屬玉 文選及黃山
谷詩

後漢 西都賦 天子登屬玉之館 歷長楊之榭 文選

宋黃庭堅池口
風雨留三日詩

孤城三日風吹雨。小市人家尺菜蔬。水遠山長
雙雁玉。身間心苦一春鋤。翁後旁舍來收網。我適臨淵
不羨魚。俛仰之間已陳迹。莫莫疑窓歸了讀殘書。
本集

野必天曰一種鷺ヨリ大ニ頭無絲脚淡黄色

ナルヲ呼ヲ號大鷺ト食 篤信曰タイサギ嘴黄色足

黒シ或淡黄色頭無勝ト勝是本草所謂白鶴子也

「小サギヨリ嶋ダケイ大ニ島ノクヨリタイサギ大」

也大和本草 舜水モ白鶴子タイサギ也トイリ詒玄達

曰鷓鴣一名白鶴子 汪穎曰似鷺而頭無系脚黄色

者俗名白鶴子主治同鷺食療要 蘭山曰鷓鴣

タイサギ藏器似鴨ト云ハ未詳ナラ時珍白鶴子ト

云ハ今ノタイサギナリ形白鷺ヨリ大ニ頂長毛

ナシ嘴ハ黒色秋ニ至レバ黄色ニ変ス脚ハ黒色又

淡黄色ナルモアリ秋後食用トス啓 忠節朝臣

云世黄嘴ト黒嘴トハ別種也黒嘴揚州高槻ト緑青鷺ト

之嘴青ト帯ト緑ト青ト色トモ也土屋英直朝臣ト深川別莊鷺ト

巢多シトモ黄鷺ト黒鷺ト別巢也黒鷺味下品飾羽子ト子用

フ翼毛黒紫方上品也又曰鷺ノ中稍小者皆著了鳥巡
上モ形違ヘリ形狀大サギゴトクニテ鳥巡ノ年經シホト大也稀
ニ見ルニアリ今按ルニ本草釋名鷓鴣一名鷓鴣
ト著ハ鳳屬ト見エ集解藏器所謂形如鴨而尖
長頸赤司班紫毛紫紺色如鳩鵲色也ト云ハ鳥
屬ノヤウニ見エ凡俱ニ未詳集解時珍曰三輔黃
圖及事類合璧宋謝維新並以今人所呼白鶴子者爲
鷓鴣謂其鳥潔白如玉也與陳氏似鴨紫紺之說不同
白鶴子白如鷺長喙高脚但頭無勝耳姿標如鶴故得
鶴名林栖水食近水處極多人捕食之味不甚佳

又潜確類書云西都口賦屬玉之館按屬玉水鳥也
天子以栢梁災爲厭勝故上林諸者多以水鳥名觀見西京雜
記版虔謂以玉飾因名誤也諸說合見屬玉白鶴子一見之
也或曰大鷺似テ股白シ忠詔朝臣大
鷺ハスベテ股白シ淡紅色ニ淡黄ヲ帶勢州揚州辺
ニハク鶴ホトノ股白大鷺アリト永井何某朝臣ノ話
ヲ聞リ又大鷺ハ鳥巡リ鳥大モ白等ノ總名也トイ
フ説モアリ今按モ白大鷺ノ中ノ種ナルヘシ鳥ノ
クリ鷺ハ奥州ニテイフアヒノモノニテオソカラ別也
鳥大モ白等ノ總名也トイ
鳥大モ白等ノ總名也トイ

水禽

鳥大モ白等ノ總名也トイ
鳥大モ白等ノ總名也トイ
鳥大モ白等ノ總名也トイ

萬信モ小鷺ヨリ鳥メグリ夫ニ鳥メグリヨリ
大鷺ハ大也トイヘリ大和本草今按ニ仙臺ニテアヒノモノ
ト称スルモノ是也蘭山云シニイリ鷺ノ一名カラリサキ蒙啓
くろやぎ

蘭山云全身黒色嘴ノ端黒ノ本黄褐中ハ灰色也目黄
ニシテ青環アリ脚青茶褐色本指ハ共ニ黒蒙熊本侯ノ
写真ニ合見ルニ大方節説ニ同シ

伊勢方言
嘴兒あは呼あはるあはるあはる
漢名漫畫本草綱目
鶴胡集解

野必大曰白鷺ニ似テ冠毛ナシ純白ナラズ帯微灰色

長喙黒嘴其端田薄如匙如篋性ヨク成郡終日
以嘴畫水淘泥求魚無一息之停飽寸立石宿
樹亦林杪ニ巢ツ人未食之不知其氣味鑑食稻若
水モ謾畫ヲモテヘラサギニ充明張鼎思琅邪代醉編陶九成云
瀛莫二列之境塘灤之上有禽二種云々ノ文ヲ載ス
庶物類纂蘭山モ亦從此説大和本草一シカモト云非也ト
イヘリ今按ニ典籍使覽云謾畫其形類鷺奔
走水土不問水腐泥沙必啜然畫索之而後無一
息少休又常以嘴畫水取魚故名アリ大方今鷺
條ニ合ストイヘ形類鷺ト云者不穩當本草

綱目鵜鴝集解。晁以道云。鵜之屬有曰漫畫者。以
嘴畫水求魚。無一息之停。有曰信天翁者。終日凝立
不易其處。俟魚過乃取之。野中可喻人之貪庸。コレモ
鵜之屬トアリテ。鵜屬ニ不収モ亦可怪。サレハ的
セルヤ否ヲ不知トイヘ。又鵜屬ニコレニ充ヘキ
者モ見エサレハ。暫先達ノ説ニ從フ。潜確類書
云。漫畫瀛洲有鳥。名漫畫。取魚奔走水上。即齧
泥沙。無不徧索。此鳥似貪競小人。又有鳥。名天然。
取魚凝立水際。即終日無魚。竟不易地。此鳥似
守正君子。天然名信天翁。ト信天翁ノイハクニ

シノ條ニ載ス可合見。一種。宣胤曰ヘラ。鵜ニ
似テ小。其嘴黒シ。小白點アリ。形三絃ノ掣。如シ其

名ヲ不知羽譜

あまのこ

なるるさ

掣く

播摩方言

漢名 黄鵠

臨桂雜識

篤信曰。小鵠。小也。夏間頭。半赤。野ニ繫ケル牛馬
ツ本和蘭山云。形常ノ鵠ヨリ微少。頭項黄赤色。
後ニハ白色ニ變ス。播州ニテ掣ク鵠ト云。臨桂雜
識ニ所謂黄鵠。背有黄色。ト云モノナリ。啓蒙

水禽

あつらひの鷺 忠韶朝臣曰先年上総下總ヨリ来リ
 シアアリ猩々鷺ノ如クニシテ稍大頂ハカリ淡樟色也
 ベに肉キ一名緋 宜胤曰 小鷺ノ如クニテ全身深紅
 嘴脚共ニ黄ヨリサキ 羽譜

あつらひハ雲 御抄
 なつらん

○蒼鷺和名
 石見津和野方言 漢名青莊本網鷺 青翰同鷺 青旗明王
 三才青鷺 府志青鷺 通志青鷺 青鷺鷺亦作鷺清張 青椿常
 圖會青鷺 府志青鷺 通志青鷺 青鷺鷺亦作鷺清張 青椿常
 明契深

縣志 鷺 事物 青鷺 常陸
 志 鷺 紺珠 青鷺 縣志
 散木 鷺ノ如クニシテ全身深紅ノ如クニテ全身深紅

野必大引和名鈔蒼鷺古訓 菟佐木今稱阿佐木 食鑑 如此註 良安
 篤信ノ類モ亦同シ和漢三才圖會 大和本草等 蘭山モ 亦從之崇 今按ニ
 和名鈔蒼鷺雀禹錫食經云鷺又有一種相似而
 小色蒼黑並有水湖間漢語抄云蒼鷺 相似而小色蒼
 黒ト云者不穩當 サレモト路鷺ハ今溝ゴ井ト云者
 ナラント云説アリミゾ井ト小路鳥ヨリモ稍小ク色モ蒼
 黒トシバ粗合セリ然レモ在水湖間ト云者俱不合ニ記ス

稻若水松玄達引三才圖會 鶺鴒ニ當ツ庶物類纂食療正要

今按ニ三才圖會鶺鴒狀如鶴亦水鳥之類生吳

中田野間其所食亦魚鱉之類味亦可食但不知

鶺鴒之肥甘耳トアリ舜水モ亦蒼鶺鴒ト下ニ蒼興青

鶺鴒並同ト云キ朱氏然ル寸ハ鶺鴒ヲモテアラ鶺鴒

ニ充ル者ハ此論本草集解ニ信天緣ハ青莊也

云文ハ疑フヘシ蘭山モ信天緣ハライ俗ニオキノクヲアホウトリト

者呼ル青莊ハアラ鶺鴒也トイヘリ又曰形鶺鴒ヨリ大ニ

メ陽鳥ヨリ小頂ニ黒冠毛アリ長シ背ハ天青色

頭上ヨリ頸ニ至ルニテ長毛白クメ淡黒斑アリ腹ハ

白シ翅ノ端黒色觜長ク末淡黒褐内ハ赤色ヲ

帶下ノ觜黄赤色目ノメクリ綠色脚モ綠色味

鶺鴒ニ勝レリ夏月最賞ス啓蒙鶺鴒ノ集解形状毛色大

方如斯但シ觜脚共多ク黄也サレテ老嫩ニヨリ小異

アルナリ必大白止汗小水ヲ利ス鑑ニ餌口ニ水

ミとけ和名セ和名

ひ和名ミ和名ニ和名

夫木イニ胡イニ朝イニ中イニ紀イニ渡イニ形イニのイニまイニてイニまイニかイニてイニまイニるイニ鶺鴒イニのイニ名イニ也イニ忠良

二百

唯並在水湖間ト云處蒼鷺溝ゴ井俱不穩當
然レ厄鶴及鷺ノ類常ニ田間ニアリトイヘ氏或ハ
海濱ニ遊ヒ或ハ江湖沼澤ニ下ルノ多ク和哥ニモ
色々ニ詠来リタレハ順ノ時在水湖間見テ如前
記セシモ短ヘカラス又先輩ノ説ニ溝ゴ井ヲモテ
ミトサギト云ヘ未聞必大及篤信良安蘭山モ
皆蒼鷺ノ古訓ミト鷺トナセシヨリ禽舗ノ
者ニ尋問ニ禽舗ニテノ通稱ノミゾゴ井ナレト國
所ニヨリミト鷺ト呼ルニヤ溝ゴ井ノイヲミト鷺ト云
来ノ間有之然レ何國ノ方言ト云ヘハ不知イヒキ

今予藏スル所ノ寫真ニツハ仙臺侯ノ圖ヲ寫ス
頸ヲ延テ立先貌也頂黒ク帶綠色冠毛長亂
起シ眼ノ上下ヨリ喉ノアタリ白ク背ニ微ク黒條アリ眼
中ハ黃也頸ヨリ下背腹股ニ至ルニテ灰色背ニ垂
ル羽重ナリ翅尾蒼綠羽端白キ縁アリ背淡
黒脚ハ灰色也コシ禽舗ノ者ニ問ニ嫩鳥ニメ
未鑑者ヲ見ヲ寫セシナラント云其二ハ飛行ノ圖
形状大方如前ニ冠毛及背ノ條純黒眼辺如肉
冠者灰青ニ背ノ脊ニツク脊ノ色モ亦同ニ眼中
黃帶淡紅頸ヨリ背際ニテ灰色背ハ青灰ニメ

帶緑 ミノ毛ノ如ク垂下ス喉腹淡黄翅蒼黒
ニメ帶緑尾モ亦同シ翅小羽灰白ノ縁アリ足ハ不
見 コレハ毬セシ鳥也西ツチガラミソ五位ニ差ナケレト
圖大キ過メリト云其ニハスクミ丸圖也總シ五位
サギノ如クテ少ク小鷺ヨリモ稍小ナルトニ見ユ頂ヨソ
背翅ニ至ルニテ蒼黒冠モアレト不長 眼辺ノ肉
根ニツキ青灰上蒼黒下此肉ノ色ニ同シ胸腹ニ亦
蒼黒色稍淡ノ腹及背ニ灰色ノ豎彪雜リ翅ニモ
灰白點アリ脚黄ニ帶緑此圖溝ノ井ノ状ニ能似白点
稍多ト云サレバ往昔ニト鷺トイハル者溝五位状ニ近シ

やばさ記

或人ノ藏圖ニ在其上ニ記メ曰形蒼鷺鳥ニ似テ細シ
冠毛アリテ胸白シ頭腹灰白ニテ背翼黒ク白キ
彪アリ脚黄青色ニシテ指亦黄黒也冬ノ頃澤
邊ニ多シトアリ然レバ其圖喉ヨリ胸エケ淡黄
赤色ニ見ユコレ前ノウバサギト同物ナラニ歟若ク
ハミソツブ井ノ属ニ其國々ヨリ方言ヲ異ニセル
者歟未詳

こゝの義

いび和名

和名鈔

唐韻云鷓鴣交青鳥名也辨色立

成云鷓伊住海邊其鳴極喧者也野必大云狀

蒼鷺ニ似テ小灰白色有碧光頂ニ紅毛アリテ如冠

翠鬣今梅ニ今コ井サギト呼者ニ形狀碧斑丹紫青脰不合毛色ハレクゴ井ニ似ル所

アリ然レモコレニモアハズ鷓鴣食巢高樹樹抄ニ宿ス云ニ鑑

君美云或人ノ説ニ和名鈔ニ鷓鴣イヒト云者ハ

今俗ニゴ井サギト云者也トイフリ鷓鴣ノ形状ハ

陳藏器李東璧等ノ本草ニ見ユレ所詳ニシ

テ此ニゴ井サギト云者ニハ似ル所アリ凡見東雅鷺注

明顧清。

又。松江府志ノ臥鳥秋暮有之文埤雅ノ禹鳥説アリ

テコニ當ル説凡不穩蘭山曰野必大鷓鴣ニアツル

甚的セス又小ハジニアツルモノモ非也ト予カ藏スル所ノ

青雉ノ圖ヲ示スニコ鷓鴣ニ近シトイヘリゴ井鷺ハ小

鷺ヨリ大ク其色キジ鳩ニ似テ灰褐色頂ニ勝アリ紫

緑黄ニメ脚モ亦青黄多ク群ヲナシテ樹上ニアリ黄

昏イテ、オホトケル聲ニテ喧スシク鳴ワタル鳥也

必炎云余リ食ハハ解魚蝦毒食鑑

セくろじるなべきひかりう

多い豊前小倉方言かふい脊肩事余黒きコ井サギニ似テ

水禽

アリ眼中赤ク此角黄ニメ黒ヲ帶脚亦黄ニメ綠色ヲ
帶甚嫩鳥ナリトテ予ニ贈ル者アリ色ハ如前ナレ共背
色甚黒カズ翅ノ色灰色ニメゴ井鷺ノ如シ腹灰白此角黒シ
眼大ニメ赤シ己毳セザルヨル毛色ノ未変モノ也又薩侯
ノ藏圖ニ形前ノ如クニ頂ニ長キ白毛アリ背灰色ニテ
驪色ヲ帶眼中黄丸モノヲ載タリ或曰セグロトゴ井鷺ト
同物ナリトテ予モ隅田川邊ニ從獵シテセグロト常ノゴ井
群ヲナスシ見シト間アリ忠韶朝臣モ常ノゴ井ハ雛鳥ニテ
スバセグロトナリシヲ親ク見タリトイハレキ
けいごら

良安旋目ニ充テゴ井鷺ニ似テ頂ノ黒毛冠ノ如ク背頭
灰黒腹灰白ニ斑アリ翅灰色ニメ白キ圓紋星ノ如シ
故ニ名ク深目ニメ眼旁ノ毛長ク旋ル此角蒼脚青掌黄
也^和蘭山モホシゴ井ハ旋目ナルヘシトイヘリ大和本草ニハホシ
ノウサキ一名ヨシゴ井ニ充ツ此モ亦旋目ノ類ナリ或曰ホ
シゴ井ヲ養フコト久シケレバセグロゴ井トナレト 忠韶
朝臣モ雛ヨリ養セテシバノ試ラレシニセグロゴ井トナリ
シト語ラレキ今按ニコノ諸説ヲモテ合セ考ツバゴ井
鷺ホシゴ井セグロゴ井皆同物ニシテ毛ノ未変ヲ見或ハ
毳セシヲ見テ名ヲ殊ニセシモノナリ蒼鷹ヲトモ菓子
水禽

黄鷹カキトヤモロ埒等ニテ毛色変リ別種ノ如ク見
元モノナレハ諸鳥凡コノ類多カルヘシ

白ゴの鷺

或人ノ寫真ヲ見ルニ全身白色ニシテ冠毛モ亦白眼邊
黄眼中紅又黄ヲ帶紫白クシテ決紫脚モ亦白色
也諸鳥凡白色ナル者有之白雉白鳥ノ類往昔コレヲ
祥瑞トナセシテ國史ニ多ク見ユタリ

よハらハるハあハりハふハんハのハあハきハ蒙ハ啓

むハまハをハいハとハりハ仙臺方言 其聲馬追ノ声ニ似たり 故ク名つくはれも亦同名あり

良安曰和名鈔觸鱗黄色聲似蒼者相并也按ニ

其形状シイハサバ未知何鳥ナリ蓋獨脊本綱為鷓鴣異名宇彙布穀

トス諸説未詳恐ハ此俗ニ云蘆五位鷺尤カヨシゴ井

鷺一名特中鳥状クヒナニ似テ稍大ク頭背腹皆柳赤色

黒斑翅及此背灰黒色脚黄ニメ青色メ帶葦葎葎

中ニ在テ其形小クメ聲大ナル者此ヨリ甚キ者ナシ宛

然ガ牛ノ吼ルガ如シ故ニ俗特牛鳥ト稱ス又脊者

下杵出カ愠々ト言ニ似タリ其飛行速クメ捕ヘ

ガタシ肉味不美故ニ強キ不取之蓋コレ觸鱗ナラ

ニ識者正之和ト云ラサヤツキトリコレゴ井等ノ和名

大載タリ今按ニコレノ説相近シトイハレヨシゴ井ト

呼者二種ナリ一ハボンノウサギ一ハ山家ノゴ井ナリ
此条ニ所謂ヨシゴ井ハボンノウサギニメ関東ニモ間アリ
其形状粗如前説ニシテ小鷲ヨリシハ頂ニ黒キ勝
アリ項ヨリ頸エカケ紫褐色背ハ黒褐ニシテ淡黄褐
ノ羽アリ翅端黒シ領下ヨリ胸腹エカケ淡黄赤ニ
メ腹下ノ毛白シ股ニ淡黄赤ノ毛相雜ル尾ハ短クシテ
黒シ背モ黒ク赭黄ヲ帶眼背淡ニ在テ口大也脚
色ハ緑黄也靜ナル時ハ頸ヲ延 背ヲ空ニメ立人ヲ
見レハ忽頸ノ縮メテ葦間ニ隱レ遠ノ飛テ不能然
凡走ルテ甚速ニメ難捕之常ニ沼辺ノ葦葦中ニ

在四五月ノ間ハンヲ狩セ給フ時放鷹ニテコレヲ捕
テ間有之山家ゴ井ハ常ニ山林ノ中ニ棲ニ適藪澤
ニ出ツ形状ヨク似タル者ナレトボンノウサギニ比スレバ
遙ニ大ク其声モ亦甚圓大ニメ全身ノ色黄褐ナリ
彼此合セ見レハ山家ノゴ井ノ方鰯鱈ニ充ヘキ者歟
蘭山モ山家ノゴ井一名コツテイトリ又ムギツクトイフ
トイヘリ又云ホシノウサギ一名ヨシゴ井旋目属ゴ井鷲ノ名
一種むまゝニヒトリ 忠韶朝臣曰別ニ鳥ノヒトリト云
者アリ形ヨシゴ井ニ似テ毛色大ニ違フ雌雄雜各其
毛色異ナリ薩州在往年薩侯ノ品川ノ別荘ニテ捕シ

ナアリ 江戸ニテイフヨシゴ井トハ自ラ別種也ト見ユ

山家のごお 江戸 巾やつきどり 和名 こつていとり 特牛ト云同シ

むきつく 去後方言其声マフクニ似名ハナリ 急ぼゆき 仙 やら急ぼ 臺

方言ニ救澤ノイラ谷地ト云此鳥救沢ノ中ニ鳴故斯イヘリ 急ぼ 同上

よーごる 蘭山曰食鑑ニ在ヨシゴ井コレ也ホシノウサギト同名ニテ二種ナリ

うごさう 越前ニ九州其牛ノ乳ガ如キニヨリ斯イフナラシ 山ゆぎ 同上

鯛鱒 和名 獨春鳥 同上

漢名 鯛鱒鳥 韻 搗春鳥 典籍

鳥黄白色聲似春者相并也 一本并也 間 必大 獨春

寒鴉 一名 鶻鴉 ナラトアリチ 按ニ四足肉翅等ノ文合

サレハ本邦ノ獨春ハ別ニ二種歟 トイヘリ 食鑑草 和異同

宣流曰姥鷺蒼鷺ノ小丸者 全体帯淡赤色

翻又曰山鷺大サ状如鷺 白鶴子ヲイフ也 毛色似黄雌雞

多リ同如斯形色委シカラ子ハ詳ナラズ トイヘ氏 蒼鷺

ノ小丸者 トイヒ 又毛色カシハ雌ニ似タレ トイフヲ 見レハ

山家ノゴ井ノイナルベシ 一種山エボト云アリ 相似テ

小毛色モ差ヘリ次ニ記ス又白鳥圖ノ水駱駝ニ
ニ近シト云説アリ山家五位ノ寫真ト合セ見ルニ
自ラ別種也下ニ載ス今按ルニ此鳥在山林適藪澤
出ツ故ニ山家ノ名有仙臺城辺ニ間有其聲甚大始間者
ハ奇ニテ怪トス似春者相杵ト云又合セリ俗人イフ鳴時
嘴ヲエニサシ入テ啼故ニ其聲竹筒ヲ吹ガ如ト未詳
典籍便覽云搗春鳥其形罕見春夏間月夜獨
鳴於深巖幽谷中啼云克丁當宛如杵臼敲夏之
聲清亮可聽又清陶敬益羅浮山志云異禽猶作丁當杵
臼之聲名之搗春鳥トイフ者コレナルヘシ其後

寛政九年ノ冬鷹ニテ捉シテ見シニ頸長ク脚短ク黒キ
勝アリテ眼ハ嘴根ニ在頂ヨリ脚ニ至ルニテ太尾ニ尺餘
嘴淡黄ニメ緑ヲ帶上嘴ハ黒ク其長サ三寸余腹亦淡黄
ニメ頰ヲ帶黒キ豎彪アリ尾至テ短シ脚黄ニメ緑ヲ帶其
長サ四寸五分許爪長ク尖シリ忠詔朝臣ハ越前丸岡
邊ニテウシ五位トイヒ肥前唐津ノ辺ニノガラ鷺トイフ大
ナルハ蒼鷺ノ嫩鳥ホドリ小ナルハゴ井鷺ヨリ稍大ナリト
語云

水駱駝

清張延
出詩 不向陽完山上去偏來河畔屢經過祇
緣頂下君胡大水陸由人與駱駝 百鳥

百鳥圖所載ト見ルニ大サ嫗シギハカリモヤアラン
頸背蒼褐ニメ帯赤背毛細垂テ翼尾カハル
翅淡黒尾甚短シ眼辺黄肉如キ者アリ此鶯淡黒目
ノ郭眼中四黄也頸ヨリ胸脇上カケ黄赤淡黒
ノ細点アリ 喉及腹下白シ嘴細長ク末尖リ微
下ニ向フ 脚淡青ニメ細ク甚不長 圖ノミテ鳥ノ大
小モ不詳鶯類ヨリハ鶯屬ニ近シ山家ゴ井ニ的セル
凡云難シ

水鶯鳥 百鳥

清郭爾
恭詩 日映斑々 文彩明 一生今夏水邊行 每逢欲兩

天陰黒鳴動時聞沃々聲 百鳥

コノ因ニ所載縮頸ノ貌也大サゴ井鶯ホト見エテ
頭ヨリ背翅ニ至ルニテ蒼黒褐尾短シ背翅ノ
羽總テ淡黒ノ縁アリ 詩ニ日映斑々ト云者コ
レライフ欵眼邊ヨリ嘴ノ際ニテコモ黄因ノ如者
アリノ目ノ郭黄眼中黒ク紅ヲ帶喉白嘴ノ際ヨリ
腹エカケ淡黄赤淡黒ノ細点アリ嘴細長ク
上嘴黒クメ帯黄下嘴黄也脚淡青ニメ短シ

コレモ沃々ノ聲ナト云所山家ノゴ井ニ似毛色
ハ山正ボニ似タル所モアト其図合セ見ル同
物トモイヒ難シ然レ凡ゴ井路ノ類ノヤウニハ
見ユ鷺屬ニシラヲツカケ別種ナレベシ

やまゑが 名は さぎ 山家ノイ
ト同名 いはけ 鳥
譜い
上

漢名 截翠 百鳥 水胡蘆 田

清張延
玉詩 一生心性似鳧鷖名以葫蘆亦解啼不見俗藤

枝 上挂却看長頸水中栖向陽步履成徑躡浪

飛 時波作梯謾許時人依樣畫黃金毛羽勝山雞 百鳥

文化改元三月土井利徳朝臣ヨリ贈之テ親ク見シニ

其形山家ノゴ井ノ如クテ小クコ井路ノ稍大也頸長ク

頭赤褐色其色ヨシ五位ニ似テ鬚ノ并キ少シク白シ喉

ヨリ腹ニ至ルニテ雌雉ノ如キ彪ノ雜毛アリテ白色相

雜ル背及翅黒褐ニシテ赫色ヲ帶翠雉ノ雌ノ如シ羽

端黒ク羽サキ亦褐色脚灰黒テ甚長カラス仙宮侯

藏スル所写真ニヨク合ス後忠節朝臣ニ示セシニ將

野友川寛信カ家ノ画本ノイボ鷺ニモ粗似タリ先

水禽

年小笠原長亮朝臣ノ雛一羽ヲ所領ヨリ持来ラシマ

見ガ堪セシキ雛ハ毛色違ヘリトイハレキ百鳥圖所

載載四ノ項縮メシ圖ナレト毛色ハ聊無違同物ト見ユ

宣胤曰イハ鷺奥州白河ノ産状似鳩鷺全体褐

色ホ口柳色小黒点アリ脚蒼黒一名イボウ羽譜

写真合見ルニコ状山エホニ合スコシモイハ鷺ト呼見ユ

は子和名鈔 字鏡 たる鏡字鏡 と記俗ノ たと奥州

々按鳴夢可守命
ヨリコトヨクヨクヨク

々按鳥ノミハ とうれ少り啓△ とうる蒙 とうる同上△ 道江△ かつん和ニ
まじと仙臺 對てい まじまじ のおまじ まんまじ とがまじ けんまじ
本嘉云廿日市方言 或曰上田ニ水某 桃花鳥日本 記和名鈔音朝 鳴疑鳴ノ誤

寫鳥字鏡 鷓鴣同上二字豆支又云太草 己等皆吾邦

漢名 紅鶴本草綱目 朱鷺禽經 本草鷺集解注類曰

赤鷺山堂 肆考

舊事紀 四年冬十一月丙寅葬于大倭身狹桃花鳥

宣化 坂上陵

日本紀 元年冬十月丙申葬神渟各川耳天皇於

倭桃花鳥田丘上陵

大京 宗祇云けちるハナクシとぬらふハおまひヨクつ

三吃

香也あつら間まひひねこれ名也之歌子

山まこすまの夕日かやそくふまうく入籍のこれと

集草根 石田力の菴の上の松山まほの色いつくさるこれね

著聞集正 むつれを射射射矢とそらふくうこのねを

お多う不足くた糸末まよさうや結さるとらひこれ

ぐ上六丈まといつうの上の園てけさよまうやとま

んよといひたれかや人ま出きて只を河さうおの田了

るがくといふと園てけさ矢成ま出さるまい

まそ南へ飛々と上六丈とをけてたたむくもいん

いれうこれうといひたれまむもま飛とこれう

といつとまめまむといまぐんまらまをくぬそ海の

南に岩の上飛花まはうまなる射ようりてまらう

こあやまこれ射れとてまらうまにこれこれおと新

同新 なる射平脚細いほやくう川まらうまらう射ハ

けまらうとの之らり射の極まらうの飛まらおら

くを 是いひむなるあままま 立出まら物まら人

た右にうくままとらまあまらうこれハ

梁王僧孺鼓吹 因風弄玉水映日上金堤猶持畏羅繳未
由朱鹭詩

得異鳧鷺聞君愛白雉兼因重碧雞未能聲
似鳳即變色如珪願識昆明路來流飲復棲淵函

陳張正見鼓吹曲朱鷺詩金堤有朱鷺刷羽沙滄濱周詩正雅曲

溪鼓發奇聲時將赤雁並乍逐彩鸞行別有翻

潮處異色不相驚上

同蘇子卿鼓吹曲朱鷺詩玉山一朱鷺萬里入玉畿欲向天池飲過

繞詠物詩選上林飛金堤麗羽翮丹水浴毛衣非貪

葭下食懷恩自遠歸上同

和名鈔玉篇云鴉音潮和名豆木一本鴉又鴉下公作

赤喙自呼之鳥也楊氏漢語抄云紅鶴和名上同俗用鴉字今

按所出在末詳日本私記云桃花鳥今按之紅名鈔流布本鴉作玉篇鴉字丁么作么二切之作

交切ト乙ハ鴉ノ誤寫ニヤ君美曰桃花鳥ツキ日本紀ニ讀テツキ

トイヒケリ中鴉字爾雅ニ鴉トイフ見エタト此ニ

テツキト云者トハ見ユス楊氏カ云シ紅鶴ハ食物本草

紅鶴鷺類ニメ色紅也禽經所謂朱鷺是也ト見ユ

ニ者即是也國史ニ桃花鳥ト記サシ或ハ我國ノ方言ニ

出シモ知ヘカラス鴉字ノ如キハ我國ニ俗創造リ所ナル

ハニ又俗ニトキトイヒシハ其語ノ轉也鴉ノ字年ニ双フニハ

鶉也トイフ説アリ鶉ハ今俗ニ野雁トイフモノ紅鶴ニハアラズ

必大曰似白鷺無冠

毛シテ帶紅翎ノ莖最紅也能高ク飛能省水ヨク

巢樹ヨク憩稍能捕魚其形態悉ク鷺ノ類ニ

不珠ナラ云ニ鮠食篤信曰閩東ニ多シ西土ニ無也大和本草

蘭山曰ツキ古ハ一名トウ同トウトト云桃花鳥日本紀

ハナクダ江州ダ州是紅鶴也盛京通志ニ紅牙

背白翅微紅故名其羽作箭翎ト云モノ同物ナリ

ベシ形白鷺ニ似テ頂ニ長毛ナシ背ハ灰色翅ノ裏ノ羽

淡紅色翎莖最紅ナリ飛時下ヨリ望見レハソノ色美

ハシ羽ヲ揚弓ノ箭ニ用ユ常ニ深林ニ巢ヒ朝ニ遠

去テ由後魚ヲ含ミ歸ル群鳴甚喧シ聲耳鳥鷓如クニ

シテ濁ル接所樹下草木生セス糞ニ有毒故ナリ

啓蒙鷹今按ニ東國ニ多シ故ニ親ク見之大方如前説

大サタイサキ白鶴子ヨリ稍小小鷺ヨリハ遙ニ大也必大等無

冠毛トイヘル頂ニ勝ノ如キ者数莖アリ後ニ垂目ノア

タリヨリ紫茸根ニテ紅紫ノ肉アリ目ノ郭モ同色ニテ眼

中ハ黄紫茸黒クメ長ク端下ニ勾ル全身桃花色年

ヲ經ル者頭背及黒ニナル翅尾俱淡紅唯揚弓

ノ箭羽ニ用ルルニナラズ的矢ノ羽ニモ用ユ者アリ

然レハ就鳥ノ羽如ク賞翫ハセス脚ハ紅紫色也本草

△淵鑑類函云

鷺鳥集解江穎曰又有紅鶴相類色紅今鳥經所謂朱鷺是也山堂肆考云埤雅楚威王時有赤鷺合沓飛翔而舞奮鼓吹朱鷺曲是也淵鑑類函埤雅曰楚威王時有朱鷺合沓飛翔後有赤色者舊鼓吹音△漢有朱鷺之祥故鏡歌二十二曲中有朱鷺曲必天曰其味甚美臊氣アリ者莫之如紅玉之浮水故長者少之又曰能婦人血症ヲ調ノ鑑

くろとく江だ仙臺かまけ伊勢かき啓蒙カキカキ

同上頸より上くろとく鳥かき鳥

朱鷺鳥ノ一種也蘭山曰頭及背脚深黑色背下曲如鎌翅端淡黒自餘ハ皆白色也啓蒙今按ツ似テ

紅色ナシ頭ヨリ上黒ク毛ナシ背ヨリ尾ニ至ルニテ反色淡青ヲ帶脚背共ニ黒シ常ニトキト群ヲ同ク東ニ間有之予モ奥州ニ在シ時放鷹シテコヲ得久シク養ヒシガ常ニ小魚ヲ餌トセリ

ばん君美曰飭字と轉し時トク東雅今按此鳥常ニ田間ニ在シこれと護者の如シ故ニ護田ノ名あり九番衛ノ意ト鶴の字

○小ぶん俗通標

わすれ和名さすノと君美云ラスノノ轉セ也東雅

鷓鴣鳥和名鳩上澤虞上護田上護田鳥上同

鵲世俗通用君美云鷓鴣ノ一名也梅首雞香月牛山俗訓

漢名 澤虞雅紡鳥上姻澤鳥同郭護田鳥同郭方月本草綱目鳩集解蝦蟆護雞酒陽

姑雞

宋御夾漆
爾雅注

烏鷄

本草綱目鷄鵒
附錄方目集解

田雞

臺灣
府志

海八哥同上

山田法
師集かしめろ汀のゆとむらやふらふらめろあやふら

和名鈔云鷄鷄鳥唐韻云鷄鷄

澤虞二音楊氏漢
語抄云護田鳥於須

賣止護田也爾雅集注云鳩音訪一名澤虞即

護田鳥也常在澤中見入輒鳴有似主守官

故以名之君美曰和名鈔云ミツスメトリト注セリ

ツスメノ義不詳ウスヘトイフハ其語轉セシ也鷄羽ニ

ウスベフトイフ名アルハ其文此鳥ニ似ルノイフ也或人説ニ
方日本草

綱目見エ
鷄同亦名澤虞護田鳥イフ此ニバント云者也トイハリ李東璧
カイフ所ノ方目ノ如キハ此ニイフハニ似テガリモ之其物ナラニハバント

イフハ鳩字ノ漢音ヲ轉シテヨヒシ也古語拾遺ニ天ノ鈿女神ヲ
ウスノイヒシハ古語ニラスシトイヒシハ畏ルヘキノ義也此神女神ナレト

オソロシキ神ナレバカイシト見エタリ古俗鳩テヨビテラスン所ウスヘ
イヒシハ其方目畏ルヘキ義ニヤアリケシ又今俗ニ鷄ノ字ヲ用ヒテ

バント云ガ加キシカルベシトオモハレズ鷄ハ鷄ノ一名ナリト見エタリ東雅篤信曰方日本草曰方目

護水鳥今按ニ護田ノ誤歟若クハ集解謂ニ蝦蟇護
水鳥也ノ文ヲヨミ違ヒニハアラザルヤ可疑也常在田澤中

形似鷄鷄蒼黑色頭有白肉冠赤足見入輒鳴

喚不去漁人呼為烏鷄カイツカリバニニ大小アリ大ハハ額

白シ白肉冠アリ足指カイツカリ似テガサメノ足ノ如クヒ

ロシ足青黒シ小ハハ初渡シ時冬間ヒタイノ肉

冠青シ後ハ赤ク九足ノ中節ト本ノ間赤シ小ハハ
味ヨシ大小皆ワタリ鳥小ハハ水カキナシ足ノ指長シ

大和 韋 若水ハ護田雞 爾雅 一名紡鳥 同上 一名澤虞 同上

一名姻澤鳥 郭璞爾雅注 一名護田鳥 同 一名姑雞 鄭夾漆爾雅注

一名蝦蟆護 酉陽雜俎 俗名オホバン 山成ト注セリ 廢物類纂

玄達ハ方目俗名盤下字用鵲大小二種アリ小ナル者

大サ如晚鳥 カラス 黒羽青脚駢蹄ナシ食止渴夏月

以為上味 食療正要 トイヘリ今按ニ諸説如斯ニメ澤

虞ハオホバンノ形状ニ合シ鳥鵲ハ小バンシイヒシヤウニ思

ハルサレトバンハ總名ナレバ大小凡通メイヒシモ知ヘカラス

今倍ニバント單稱スル者ハ小バンナリコレ鷺ハ總名

ナレトサギト常ニ單稱スル者ハ小鷺ナルガトシ

爾雅邦疏ニ郭 云 澤虞今姻澤鳥似水鴉 カモ 蒼黒

色常在澤中 云 説文ニ云姻嫪也聲類ニ云姻嫪

戀惜也以此鳥戀惜池澤見人不去因名姻澤鳥

也本草綱目鷓鴣附録方目一名鴉西人謂之蝦蟇

護水鳥也 云 閩人訛為姑雞 蘭山曰清俗ノ田雞ナリ

臺灣府志云海八哥黒身紅頂緑足一名田雞 トイフ

享保復言ニモバンヲ田雞ト云ト見エタリ 啓蒙 田雞ノ名

モトヨリ的セリ 府志ニイフ所ハバンニメ護田雞ノ

畧語ナラン飲肉集解ニ食解諸魚毒 時珍

スガバシ

水禽

忠韶朝臣曰撰津國高槻ニテ捕シテ有小バンヨリ小
鶯足頭片秋雞ノ屬也余身灰色ニメ喉ヨリ腹白ク服
ヨリ腹エカケ赤褐色三月ノ末ニ出ルヨリ春バン名アリ
山バン

仙臺侯ノ寫真ニ在小バンヨリ稍大ク鶯及肉冠赤
キフ小バンノ如クニメ足ハ大バン近ニ然ニ指ノ間木葉如
キ裾見エズ西國久ニ尚ニ知者ナシ寫真ニテ未詳
大バン

漢名骨頂百鳥

清野兩
秦詩

形似鷺鷥一例者、翱翔林際羽珊珊而生肉

頂巍然聳、鬣方髻仙姬白玉冠百鳥

雄雞ヨリ差小黒色ニメ褐ソ帶頂ニ白キ肉冠アリ脚大

ニメ指ニ木葉ノ如キヒレアリテ鷓鴣ノミツカキノ如シ常

ニ水澤蘆葦草間ニ棲リ百鳥図ノ骨頂ト題セル者

則コレ也本草集解蒼黒色有白肉冠ト云能合セリ

青雞和漢
通名

漢名青雞清朝
俗稱翠雲鳥百鳥

張廷
玉詩小青斜戴翠雲翹、彷彿湘妃別樣嬌、一種羽毛偏

澹遠、碧沙籠汝哀魂消百鳥

宣胤曰青雞大ハニ似全身黒ク紺珀石メ金光有鶯

バンヨリ太ク額赤シ生餌ヲ食フ米水ニツケテ飼ス
シ後ニ六米ヲモクラヒ卵ヲモ産スコレヲ養フ法スベテ
バンニ似タリ羽譜今按ニ先年船来セシ唐山五番船載
来リシ青雞カシボキ東埔塞ノ産也ト云者寫真ヲ見雄形
バンニ似テ頂ニ紅毛アリ頬ヨリ頂ノアタリ灰白頸ノ後
ヨリ腹エカケ青碧石ニメ帶淡紫胸綠色背翅ハ
紺黒股及尾下黒ク尾ハ短クメ白シ目ノ郭紅眼中ハ
黄也鬚太ク淡紅メ含紫脚モ亦淡紅爪白シ其
雌モ雄ト毛色無差項及頤ノアタリ帶黄褐鬚
脚凡色濃メ紅紫也後又此圖ヲ示シ平岡美濃守頼

長ノ話ヲ聞ニ先ノ御代ニ青雞四船来リ其中ニハ
斃レニツク吹上ノ官園ニ養レンガ形ハンニ似テ稍大
頂紅ニメ喉ヨリ胸ニ至ルニテ紺碧ニメ光アリ脚
ハ蒼黄ナルイモバンノ如シ此図ヨク似ハ似タレ凡胸臆
ノ緑毛アル所脚ノ淡紅ナル所違ヒタリト語ラレキ
又熊本侯寫真青雞ハ前アリ大ク
頂及鬚脚凡ニ紅紫頬ノアタリ紺黒ノ毛アリ頸ノ後
ヨリ脇腹エカケ青碧石色背翅俱ニ紺黒股及翅端
黒シ喉及羽ヅシ胸腹エカケ綠色目ノ郭紅紫眼
中ハ黒シ又百鳥図翠雲鳥ト合見ルニ毛色稍

沈久玉身帶沈緑ノミテ餘ハ聊違フ一十ク同物
ト見ユ廣東新語云青雞比秦吉了稍大尾長
頭上一點如丹砂云エトアル者是欵但尾長ト云者
不的セ同名別種ニヤ若ク此名ヲ仮用ヒシ者欵憶フニ
所謂交鵲ト云者コレニ近シ故ニコノ下ニ載ス可
合考先年青雞ノ舶来セシ時東埔寨深山
出シト云シトイヘドイブカシ百鳥圖ニハ水際ニ在ル共
ヲ圖セリ諸圖小異アル傳寫ノ差モアルベシ

鷓鴣爾 鴉同上 交曠本草釋名 交晴文選上 交精典籍

鷓鴣便覽 交雞本草釋名 交目同注

後 晉庾思吳都賦 戈磻放替鷓鴣 虞機發留鷓鴣文選

前 漢司馬相如山林賦 鴻鷓鴣鴉 駕鸞屬玉交精旋目煩鷓鴣

庸渠箴疵鷓鴣盧羣浮乎其上沈淫泛濫隨風澹
澹與波搖蕩奄薄水渚文選

晉虞執鷓鴣賦 有南州之奇鳥諒殊美而可嘉生九臯之曠澤

遊江淮之洪波既翦翼以就養還婉孌乎邦家鷓鴣
呈儀若刻若畫鸞頭龜背戴無耳白斑毛頰膺駁
羽朱腋青不專紺纁不擅赤因宛點注希稠有適
其在水也則巧態多恣調節柔骨一低一仰乍浮乍

沒或游或舞續翻倏忽若乃陽故多陰殊方相求見

水則起觀火則憂淵鑑類函

梁簡文帝飲三芝之淳露食六草之英芳似金沙之符米

鷓鴣賦同錦質之報章紅毛覆臆翠鬣垂心浴波泳渚浮

廣戲深臨高舞翻映淺弄音逐餘暉而顧景乘

清吹而微吟同上

唐陸龜蒙客有過震澤得水鳥所謂鷓鴣者既予黑

襟青脰碧爪丹喙色幾及項質甚高而意卑云

同上

唐杜牧芝苙抽紺趾清唳擲金梭日翅間張錦風池

鷓鴣詩

去眉羅靜眠依翠荇煖戲折高荷山陰豈無

爾繭字換君羊鷺詠物詩選淵鑑類函翠荇作翠

也同李羣玉風荷珠露傾驚起睡鷓鴣月落池塘靜

金刀剪一聲同上

同李賀雍州二月梅池春御水鷓鴣暖白蘋試問酒旗

歌板地今朝誰是柳花人同上

同皇甫松蠻歌苙苙北人愁松雨蒲風野艇秋浪起

鷓鴣眠不得寒沙細々入江流同上

金玉礪竹遠沙邨水漫流鷓鴣對沈浮一竿使

擬從漁父卷置琴書買釣舟同上

元馬臻 漫成 新霜尚薄樹聲乾、寒水無痕倒浸山、知是釣

船歸較晚、鷓鴣嘍々起蘆灣、詩選

明王微秋夜集 右湖分得莊字 雲罨湖山遠、樹蒼鷓鴣飛、破藕塘香

月明處々添秋色、一東芙蓉正洗粧、上

ハヤクハ鷓鴣ヲモテゴ井鷺ニ充シ說多ケレ其のセリト言

難シ 蘭山曰鷓鴣詳ナラスバニ充說ハ穩ナラス云

又舶来ノ青雞小ハシノ形ヲ大ナク者也蒙 今按ニ爾雅

云鷓鴣郭注似鳧脚高毛冠江東人養之以厭

火災 說文云鷓鴣也本草 鷓鴣本草 鷓鴣本草 鷓鴣本草

釋名時珍曰按禽經云白鷓相睨而孕鷓鴣晴交而孕中

交目其名鷓觀其眸子而命名之義備矣說文謂交臚

臚亦目瞳子也俗呼莛雞云多居莛菰中而脚高似雞

說亦通集解藏器曰鷓鴣水鳥也出南方池澤似鴨綠衣

人家食之馴 擾下去可厭火災博物志云鷓鴣巢

乎高樹生子於火中御其母翼飛下飲食時珍曰鷓鴣

大如鳧鷖而高脚似雞長喙好啄其頂有紅毛如冠

翠鬣亂碧斑丹嘴青臚養之可玩コ等諸說及

上詩賦之見 似青雞又似海南雞然ハ小異ハ

ハ必的セナク言難シ

異物志云鳩鵲巢於

高樹生子在窟中未能飛皆衝母翼飛上下也

後世養鳩鵲者多於池渠以其為水禽云清康文英

廖氏字通云鶯丹頂有紅毛如冠

恭王好關雞鴨養孔雀鳩鵲奉穀一年二千石秦

王嘉拾遺記云糜竺家人收鳩鵲數千頭養

於池藁中以厭火

開元中堂子遣中官往

江南採捕鳩鵲及諸水禽汴州刺史倪若水上疏諫

曰陛下當以鳳皇為凡鳥麒麟為凡獸即鳩鵲鴻

鵠曷足鳥也コ等ヲ見ル南國ノ產美麗鳥ヲ

普ノ人ノ養者見ユ先年長崎舶来セシ唐船

五番ニ載来シ海南雞ト云者海南ノ名及毛色モ鳩

鵲青雞トトニ似スヤウナハ其圖ヲ合セ見ル鶯ニ鶯ト

脚距アル其雞属ニ水禽ニアラス原禽雞一種

今治侯ノ圖名ノ不知鳥アリ形似大鷲頂ヨリ鶯

根連リテ紅肉冠アリ目ノ郭ウス黒ク眼中黄ニ帶

紅頭ヨリ胸腹ニ至ルテ紺白毛相雜黒北月黒ク羽毎ニ次

黄赤褐ノ縁アリ鶯黄ニ細甚端尖リ脚高青

灰色爪黒シ其名不詳 鳩鵲ニ粗似ル所アルト

不穩當憶フ本草綱目原禽秧雞集解一種

鄧

鷓鴣鷓音亦秧雞之類也大如鷓而長脚紅冠雄者大而色褐雌者稍小而色斑秋月即無其聲耳甚火人並食之ト凡者コレ近

こびん俗

漢名地鳥百鳥

清爾恭詩

烏頭偏早白、纖趾步花叢、鈎隱毛中利、枝棲雪裡紅、祇聽聲遠近、誰識體雌雄、料爾能啼夜、曾

傳樂府工百鳥

多紀家藏ス所ノ寫真ヲ見ルニ頸白ク項ノ所ニ小

判ノ如ク黄色ニメ橢圓ノ紋アリ背灰色微ク紅ヲ帶

翅長クメ白ク翅ノ末黒シ胸腹及ヒ尾皆黒シ尾長

キ下雄雞ノ如シ比甬脚共ニ淡青其大サ圖ニ批レハケ

リノ如シ其圖ニ頸セシヲ見ルニ駿河ノ城北ニ里許

浅畑村ハ其地蓮葉蔞多シ甲寅六月異禽アリテ

蓮子蔞蔞間ニ翱翔飛鳴ス其聲狗兒ノ吠ルガ如

シ又或貝ヲ吹ガ如シ人怪ム一漁人竟ニ網メ

捕ル不知其名 橢金ニ似ル紋凡ヲ以小判鳥ト

名クトアリ清ノ百鳥圖巖下水涯石上ニ在ル所

ヲ圖ス毛色形状ヨク 合セリ地鳥ト頸ス同物ナ

ルベシ

けり

良安云大サハトニ似テ頭背灰黒胸腹共ニ白ニ翅端
 黒ク尾短ク黒キ斑アリ背黄赤ニ末黒ク脚長ク黄
 ナリ常ニ水邊ニ啼能魚ヲ捕ル其肉味甘美ニメ秋月
 一ノ賞喘咳方咳ヲ治シ不食ノ病ヲ治_和野必大云
 膈噎脾胃ヲ調へ婦人ノ帶下諸ノ血症ヲ療ス_食鑑我
 父君ノ膈噎ヲ患給ヒ時ヲ寫真モテ求メ得テ不
 ラセガ一旦ハソノ驗アリシナリ_和野必大云
 志_和野必大云

熊本侯ノ寫真ヲ見ルニ頭ニ長キ冠毛アリ目ノ上白
 ク頬ニ黒毛アリ頸ニ棒色ノ毛アリ臆黒ク翅緑色ニ
 淡紅色相雜ル背モ亦今シ腹白ク尾黒クメ短シ脚淡
 紅ニメ長シ

うみくろり 朝鮮けり

高須侯ノ寫真ヲ見ルニ形ニケリニ同クメ冠毛ア
 リ頬ニ黑白班アリ臆黒ク腹白シ背ヨリ翅ニ至ル
 ニテ綠色羽黒ク紺碧色尾白メ尾ノ弁キ碧紺ナリ
 疑ラク同物ニメ雌雄ナラシ歟或曰朝鮮ケリハケリ
 似テ全身黒ク青光アリ頭ニ長キ勝アリト是モ亦

同物ナリ

なぐけり關東山けりいぬ清水雀方言

忠韶朝臣云薩州ノ方言ニ清水雀トイフモノ則十ハテ

リナリ朝臣ノ写真ヲ合セ見ルニ毛色其外高須侯

藏圖ノウミケリニケリニ差テ無ク冠毛少シク

長ク脚鰯色ナルニコレモ亦同物ト見ユ良安云山ケリ

ハ形ケリニ似テ頭背翅共ニ青黒翅ノウラ決赤色シ

帯胸腹白ク嘴黒シ脚ハ赤黒ナリ和コレ皆同物ナリ但海

トイヒ島トイヒ山ト云モノ其仕凡所ニヨリテ名ヲ命ゼシナ

ラニトイフ真ケリニ對メ黒キヲイヒ大トイフ賤ケルコトハ也

一種

蘭山藏人所写真ヲ見シ其旁ニ記メ曰安永九年五

月某國東郡波川村獵師勘左衛門ト云者コレヲ捕フ

形状如图ニテ兩翼ノ肩ニ小爪アリ後趾ノ爪列リテ長シ

尾四枚アリ其色黒ク長キ雄雉ノ如シ腹ヲ割テ見ルニ

田螺殼アリ田ニ在ラ捕シガ鳴声未聞トアリ蘭山モ未

知其名ト云今其圖ヲ詳ニスルニ形海ケリノ如ク頭ヨ

リ尾ニ至ルニ黒褐色長キ冠毛アリ嘴細ク尖リ決黒

ニメ黄ヲ帶喉下白ク少ク黄ヲ帶リ翅白ク羽端黒シ

脚色決青蜘蛛手ヒロク四指ノ爪長シ

百鳥圖ニ

載地鳥ノ属ニ別種ナルモノナリ

水華冠

百鳥

清郭爾
恭詩

水鳥栖平陸、飛々入花徑、頂上有修毛、

蒙茸似華勝、見人輒從身張、飄揚影不定、間或

宛轉啼、清音亦可聽、名之曰花冠、斯名亦相稱、

妝飾動紅閨、欄干為君憑、百鳥

見其圖ノ前ノ水駱駝水鴛鳥ニ比スハ状甚

大頂ヨリ項背ニ至ルマテ赭色ニ帯黒褐冠毛

数莖亂起メ向上ニ冠毛ノ端黒白ノ横條アリ眼ノ

邊ヨリ觜根ニテ青肉ノ如キ者アリテ眼中黄ニ帯

紅翅尾込黒青灰ノ羽相雜リ尾甚短シ喉ヨリ

胸エカケ込黒ニ黒キ彪アリ胸腹俱ニ込黄褐灰

黒灰白ノ羽相雜リ中ニ込黒ノ横彪微クニリ觜

黒ニ帯黄甚不長カラシテ端尖ル脚ハ青白ニ不長

冠毛ノサマ吾邦ノ鳥ケリナトニ類セル所モア

ト形遙ニ大ク毛色モ亦差ヘリ大方ハ鷺屬

ノヤウニ見ユレ未詳

... ..

... ..

... ..

